

平成 25 年度決算付属資料

- I 主要な施策の成果に関する説明書
- II 基金の運用状況を示す書類

武蔵野市

I 平成 25 年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法第 233 条第 5 項の規定に基づき、平成 25 年度における主要な施策の成果に関する説明書を提出します。

武蔵野市長 邑上守正

平成 25 年度は、第五期長期計画の 2 年目として、「確かな未来へ 活力と創造性のある都市をつくる予算」と位置付け、長期計画に掲げられた施策を着実に進めるとともに、新たな行政課題にも柔軟に対応してまいりました。

平成 25 年度の施政方針における「市政運営の基本的考え」において掲げました施策について申し上げます。

東日本大震災の経験と教訓をふまえ、天井などの非構造部材の安全性の確保、建物の耐震化のためのアドバイザーの派遣や相談事業、耐震診断・工事等への補助などを進めました。また、災害時要援護者への安否確認訓練、帰宅困難者対策訓練の実施、自主防災組織のための資機材の提供、地域防災計画の改定および市民への周知など、災害への備えの拡充を図りました。

東日本大震災の被災地はいまだ復興への歩みが遅く、住環境整備や生活再建への道りはまだまだ遠いと言わざるをえません。一刻も早い復興に向け、職員派遣などの支援を今後も続けてまいります。また、昨年発生した大島町土砂災害への支援の一助として職員派遣を行ったように、今後も災害時の連携支援にも積極的に対応してまいります。

安全・安心なまちづくりとして、平成 25 年 4 月から吉祥寺ミッドナイトパトロールによる 24 時間パトロール体制を整備し、また、地域の協力で防犯カメラを増設するなど吉祥寺における防犯力、犯罪抑止力を高めました。

循環型都市づくりに向けた取り組みとして、公共施設が集中している中央図書館周辺におけるエネルギーの効率的な利用の検討を行うとともに、太陽光発電システムを第一中学校に設置しました。太陽光発電施設は、市内の公共施設のうち 24 施設 27 か所に設置することができました。また、地下水の涵養と水害の被害軽減のために、雨水浸透施設設置への助成、生活道路への透水性舗装の施工、学校への雨水貯留浸透施設の設置などを推進し、水循環型都市の形成を図りました。ごみの減量やリサイクルを促進するため、新武蔵野クリーンセンター（仮称）の建設やごみ減量協働事業を進めたほか、ごみ組成分析調査を実施し、市内で排出されているごみの実態の把握に努めました。

武蔵野らしい平和で美しいまちづくりに向け、夏季平和事業や平和の日イベントなどの平和啓発事業を開催し、平和の大切さを発信してまいりました。また、地域の特性に合った、緑豊かな美しい街並みを創出するため、市民の意見を取り入れながら、建物の高さ制限の導入を行いました。

本市は平成 25 年度において、人口が 14 万人に達しましたが、高齢化が進み単身世帯も増えているのが現状です。誰もが安心していきいきとした生活ができ、地域で孤立しないよう支え合う取り組みが必要です。地域リハビリテーションの推進の理念のもとに、保健・医療・介護・福祉等の連携や権利擁護事業などを進めました。また、地域の支え合いの力を高めるために、コミュニティ協議会、地域社協（福祉の会）や青少年問題協議会地区委員会などによる様々な地域活動に対して支援を行いました。

子どもを安心して産み育てられる環境づくりでは、待機児童対策をはじめとする保育施策の拡充、学童クラブ事業における土曜開所の本格実施、幼児教育の振興、相談・支援事業の充実を図ってまいりました。特に増え続ける待機児童の解消に向け、認証保育所の誘致やグループ保育室の開設により、定員枠を 162 名分増やしました。今後も対策の充実を

図ってまいります。

武蔵野市の魅力をひろげる都市観光を推進し、歩いて楽しいまちづくりを進めるため、吉祥寺駅南北自由通路を整備し、武蔵境駅北口広場整備などに着手をいたしました。

また、地域産業の振興を図るために「産業振興計画」の策定を行ったほか、地域主催イベントへの支援などを行い、地域振興に向けた集客にも寄与することができたと考えています。

自治体運営の基本的ルールである自治基本条例（仮称）の策定に向けて、庁内に自治体運営に関する条例検討委員会等を設置し、先進自治体の事例研究や市民や市長等の役割について検討を行いました。また、自治体間の連携につきましては、自治体クラウドの活用や環境施策における広域連携について、調査研究を進めました。

持続可能な都市をめざして、限られた財源の中で行政サービスを維持しつつ、新たなニーズに柔軟に対応し課題解決を図るには、不断の行財政改革が必要です。平成 25 年度は、事務事業の見直し、使用料・手数料の改定を行ったほか、公共施設再編の検討、財政援助出資団体の見直しに関する基本方針の策定をいたしました。今後、更新を迎える公共施設、都市インフラの費用は 20 年間でおよそ 1,600 億円と見込まれており、厳しい財政状況となることが想定されます。こうした課題を解決するためには、公共施設等の統合や合築、施設規模の適正化や他の自治体との相互利用などの検討を進めなければなりません。市民に対しては、こうした課題について説明会などを開催し、情報発信等を行ってまいりました。今後も市民に理解を求めながら、行財政改革を断行し、持続可能な都市の実現に力を注いでまいります。

平成 25 年度の歳入歳出決算の概要を申し上げます。

歳入決算額は 623 億 2,745 万 9 千円、前年度比 35 億 934 万 4 千円、6.0%の増となりました。市税収入は、固定資産税が前年度比 0.2%の減となるものの、法人市民税が前年度比 11.7%の増、個人市民税も転入者の増等により前年度比 1.3%の増となり、市税全体では、6 億 201 万 3 千円、1.6%の増となりました。

歳出決算額は 598 億 3,846 万 4 千円、前年度比 40 億 5,345 万円、7.3%の増となりました。障害者自立支援給付等事業や保育サービスに要する経費などの扶助費が前年度比 5 億 9,000 万 2 千円、5.2%増の高い伸びとなりました。また、武蔵境駅北口広場整備や吉祥寺駅改良整備、新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業などの投資的経費が前年度比 26 億 3,974 万 9 千円、55.7%の大幅な増となりました。こうした歳出の伸びに対して、世代間の負担の公平性や後年度の財政負担等に配慮した市債の活用、過去の市民のみなさんの蓄えである基金の取り崩しなどにより必要な財源を確保し、適正な財政運営に努めてまいりました。

平成 25 年度の歳入歳出差引額は、24 億 8,899 万 5 千円、次年度への繰越財源 7,472 万 3 千円を除いた実質収支額は 24 億 1,427 万 2 千円、前年度比 5 億 3,557 万 9 千円、18.2%の減となりました。

以下、平成 25 年度の主要な施策の成果について申し上げます。

なお、各施策ごとの決算額については、成果一覧表をご参照ください。

I 健康・福祉

(1) 支え合いの気持ちをつむぐ

災害時要援護者対策事業は、市内全 13 地区のうち、8 地区で支援者探しを行い、5 地区で更新作業を行いました。また、地域の実情に応じた安否確認訓練、支援グッズの購入、地域社協との意見交換会を行い、事業実施体制の強化を図りました。

心のバリアフリー推進事業では、障がいのある方が地域生活を営むための支援に関する知識を学び、障がいに対しての理解を促す講習会を地域住民等に実施し、延べ 944 人の方が受講しました。

(2) 誰もが地域で安心して暮らしてつづけられる仕組みづくりの推進

全ての市民が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう、保健・医療など様々な機関との連携を進めるとともに、ケアマネジャーを対象とした医療連携研修や介護保険等事業所を対象としたスキルアップ・定着支援のための研修などを実施しました。

権利擁護事業につきましては、(公財)武蔵野市福祉公社に対して補助を行い、権利擁護事業・成年後見制度の利用促進を図りました。

武蔵野市高齢者福祉計画・第 6 期介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、高齢者実態調査、要支援・要介護高齢者実態調査、ケアマネジャーアンケート調査及び民生委員の訪問による独居高齢者実態調査を実施しました。これらの調査により高齢者の生活実態、介護保険事業や高齢者施策全般への意見・要望等を把握に努めました。

認知症高齢者支援事業は、相談事業の充実、普及啓発の推進、在宅生活支援の 3 つを柱に事業を行っています。認知症に対する啓発活動や相談事業を実施したほか、認知症高齢者及び家族への支援として、ヘルパーを派遣しました。

家族介護支援事業では、介護家族の交流・情報交換の機会の提供、介護技術などの講座、家族介護用品(おむつ)の支給などを実施し、家族介護者の負担軽減につながりました。

障がい者の実態を把握するため、アンケートによる調査、分析を行い、実態調査報告書を作成し、武蔵野市障害者計画・第 4 期障害福祉計画策定の基礎資料等として使用しています。

障がい者の相談支援体制の強化については、新たに指定特定相談支援事業所として 3 事業所を指定し、障がい児・者のサービス等利用計画作成を推進しました。また、相談支援専門員連絡会を発足させ、市内相談支援専門員間のネットワークの強化、計画相談に関するスキルの向上を図りました。

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

食育講演会の実施事業につきましては、生活習慣病予防等の講演会や展示などを行い、食育の推進を図りました。

予防接種事業では、ヒブ、小児用肺炎球菌等の定期予防接種を実施したほか、高齢

者肺炎球菌、先天性風しん症候群対策事業としての予防接種事業も併せて行い、疾病の発生及びまん延の予防を図りました。

がん検診受診率向上事業では、昨年度実施したアンケート調査結果をもとに、がん検診の対象者に対し、受診勧奨や再勧奨を行い受診率向上を図ったほか、勧奨効果をまとめました。

(4) 誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり

障害者就労支援センターあいの運営では、就労支援を実施し、新規就労者は前年度に比べ5人増え、37人となりました。また、ハローワーク、就労支援事業所、学校、企業などとのネットワークを活用して情報の共有化を進めるとともに、セミナー等を開催し、地域における啓発活動を行いました。

引きこもりサポート事業では、当事者、家族に対する相談事業やセミナー、講演会等を実施したほか、当事者支援のため、吉祥寺ハモニカ横丁を活動場所として期間限定で店を開くなど新しい企画を実施しました。

(5) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

障がい者のためのグループホーム新設に向けての開設支援、家賃助成などを行いました。

介護保険を利用する低所得者に対し、訪問介護サービス利用料10%のうち5%分の助成を行い、また通所サービス利用時にかかる食費のうち、一食あたり200円の助成を実施することにより、安心した在宅サービスの継続を図りました。

II 子ども・教育

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

認可外保育施設入所児童保護者助成金については、新たに対象者をグループ保育室利用の保護者に拡充し、合わせて所得に応じた支給基準を設けて低所得者の助成額を拡大させました。

認証保育所の誘致については、グローバルキッズコトニア吉祥寺園、グローバルキッズ武蔵境園に対し、開設準備経費等の補助を行い、新たに80人の定員を確保しました。

賃貸物件活用グループ保育では、とことこ保育室みいところ、吉祥寺南町すみれ保育園を開設し、新たに定員24人を確保しました。

境こども園運営事業では、認定こども園「境こども園」の建設、管理運営に対し、(公財)武蔵野市子ども協会へ補助を行いました。施工業者の倒産により竣工が遅れていましたが、4月から竣工までの間、市民会館内での長時間保育「さかい分園」と児童館内での短時間保育「さくら分園」の代替事業を実施しました。

子ども協会立保育園事業については、平成25年4月より新たに市立保育園3園を(公財)武蔵野市子ども協会へ移管しました。また、協会立北町保育園の移転改築工事に対する補助を行い、受入枠32人の拡充を図りました。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実

幼児期の教育の振興を図るためのプログラムの策定では、学識経験者の助言を受けながら、庁内委員会で検討しました。

子育て支援事業では、すくすくスタート試行事業やまちぐるみ子育て応援事業補助金等の事業を実施し、地域での子育てを支える取り組みを充実させました。

(3) 青少年の成長・自立への支援

むさしのジャンボリー事業では、武蔵野市青少年問題協議会地区委員会との共催事業として、2泊3日のキャンプを12回実施しました。

子どもを守る家関連推進事業では、子どもの安全を高めるため「子どもを守る家」「自転車防犯帯」の拡充を図り、「CAP ワークショップ」を実施しました。

学童クラブ事業では、地域子ども館あそべえとの連携を進め、土曜日開所を本格実施しました。

子ども文化・スポーツ・体験活動事業につきましては、親子 de サイエンスや自然観察ハイキングなど、子どもたちが文化・スポーツ・野外活動を通して豊かな感性を育み、心身ともに健康な体を作るため、基金を活用して体験活動を実施し、毎回、多くの子供たちが参加しております。

(4) 子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備

児童館では、健全な遊びと安全な居場所の提供及び子育て支援を実施しました。また、4月から11月半ばまで2階で境こども園代替事業を実施し、平成26年4月から緊急待機児童対策として、2階部分を利用した「ひまわり保育室まあーる」を実施するための改修工事を行いました。

泉幼稚園跡地に、子育てひろば機能、グループ保育機能、夜間・宿泊を含む一時預かりサービス機能を地域の力で提供する子育て支援施設を整備するため、平成25年度は土地の購入や施設建設を進め、平成26年7月末に「すくすく泉」を開設しました。

(5) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

教育相談事業については、教育支援センター、学校、子ども家庭支援センター等関係機関が連携を強化し、いじめ・不登校・発達障害などの相談・支援を行いました。また、東京都「学校と家庭の連携推進事業」を3校が活用し、不登校傾向にある児童・生徒の支援を行いました。

少人数指導及び学習支援教室等の推進事業では、弾力的編成による少人数指導、小1プロブレム等への対応を行い、個に応じた指導の充実を図りました。また、放課後等に学習支援教室を実施し、一人一人の学びの状況に応じた指導をすることができました。

児童・生徒の情報活用能力を伸ばすために、小学校12校に書画カメラ、プロジェクター、電子黒板等を増設し、中学校2校に無線LAN環境を構築しました。

特別支援教育推進事業では、専門家スタッフやサポートスタッフ等を小中学校へ派遣し、学校教育の充実を図るとともに、特別支援教室指導員研修会を実施し、専門性の向上を図りました。

特別支援学級の運営につきましては、平成 26 年度開級に向け井之頭小学校に情緒障害等通級指導学級を整備しました。

Ⅲ 文化・市民生活

(1) 地域社会と市民活動の活性化

地域のつながりの共有とコミュニティセンター機能の検討では、「これからの地域コミュニティ検討委員会」を設置し、本市の地域コミュニティのあり方について議論を重ね、中間提言のとりまとめに向けての意見交換を行いました。

市民活動促進事業については、市民及び市民活動団体向けの講座や職員向け研修を開催し、情報誌を発行したほか、平成 25 年 4 月からフェイスブックによる情報発信を始めました。このことにより市民、市民活動団体、職員の市民活動や協働に関する意識を高めるきっかけとなりました。

(2) 互いに尊重し認め合う平和な社会の構築

平和啓発事業については、非核都市宣言平和事業実行委員会とともに、パネル展や講演会などを開催し、市民の平和への意識向上を図りました。また、平和啓発 DVD を作成し HP 上で公開したほか、図書館での貸し出しや市内公立中学校へ配布を行いました。

男女共同参画施策の推進では、第三次男女共同参画計画を策定し、また、むさしのヒューマン・ネットワークセンターにおいて講座や男女共同参画フォーラムを開催し、意識啓発を図りました。

(3) 市民文化の醸成

開館から 30 年余を迎えた市民文化会館は、経年劣化・老朽化と天井の耐震化、バリアフリー等への対応が喫緊の課題となったことから、大規模改修を行うための基本計画を策定しました。

観光振興事業では、観光推進機構の効率的かつ機動的な運営を行うため、平成 25 年 7 月に一般社団法人武蔵野市観光機構に改組しました。また、観光情報の集積と発信、フィルムコミッション事業等を行いました。

歴史資料館開設準備事業では、武蔵野市歴史資料館（仮称）管理運営基本方針に基づき展示基本設計を作成しました。また、旧西部図書館の一部改修を行ったほか、廃棄公文書のデータ化作業に取り組みました。

(4) 市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

児童を対象とした図書サービスでは、「としょかんこどもまつり」、「むさしのブック

スタート」等の事業を引き続き実施し、読書推進活動を行いました。また、みどりのこども館での出張おはなし会と図書の貸出サービスを行い、配慮の必要な子どもたちへのサービスの充実を図りました。

ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスは、昨年度よりも多い約 160 万人もの方にご来館いただきました。図書館機能と青少年活動支援機能の連携やプレイスフェスタなど、複合機能施設としての特徴を活かした事業に取り組みました。

スポーツ祭東京 2013 では、大会を盛り上げるためのイベント開催など広報活動を実施するとともに、花いっぱい運動やボランティアなど市民との協働による大会運営を行いました。

(5) 地域の特性を活かした産業の振興

認定農業者経営改善支援補助事業については、農業の機械化等を促し、作業効率向上のための支援を行いました。

都市農業経営パワーアップ事業では、農家の施設整備に係る経費の一部を補助し、年間を通じて、作物を共同直売所や学校給食に安定供給できるようになり、農業経営力の向上につなげることができました。

商工振興事業につきましては、各種イベントや駅前イルミネーション等への補助を行いました。これらの事業は商業活性化のみならず、市外から集客できる恒例行事として定着し、観光振興にも寄与しています。

商店街まちづくり事業では、まちの安全・安心のための施設・設備の整備等を行う商店会に対し、商店会負担分の 1/2 を市が補助する制度を創設し、商店会の防犯カメラ設置が進みました。

産業振興につきましては、本市で初となる産業振興計画を作るため、民間企業、金融機関、学識経験者及び公募市民などによる策定委員会を設置し、実効性の高い計画を策定しました。

中小規模事業者への利子補給などの補助を平成 25 年 9 月から対象範囲を拡大し、より幅広い支援を行いました。

(6) 都市・国際交流の推進

アメリカ・ラボック市との交流事業では、ジュニア交流団として中学生 16 人、引率者 3 人を派遣し、ホームステイ等を行い交流を深めました。

中国との相互交流事業では、中国から 10 回目となる受入れ事業として「北京市月壇中学青少年交流団」 中高生 12 人、引率者 3 人を受け入れました。ホームステイ 2 泊を含め、都立武蔵高校での生徒交流等を行いました。

韓国との相互交流事業では、大韓民国忠州市へ中高生 12 人、引率者 3 人の訪問団を派遣し、ホームステイ等を通じて交流を深めました。

(7) 災害への備えの拡充

災害に強いまちづくりの推進のため、耐震診断アドバイザーの派遣や相談、住宅耐

震診断・改修の一部助成を行いました。相談件数 24 件、耐震診断 60 件、耐震改修 58 件の利用がありました。

特定緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路の閉鎖を防ぎ、広域的な避難路及び輸送路を確保するため、耐震費用の一部を助成しました。

防火水槽新設工事事業については、火災時の消防水利を確保するため、耐震性の防火水槽 4 基を新設しました。

地域防災計画の推進事業では、東日本大震災の教訓を後世に継承し、地域防災力の向上を図るため、防災シンポジウムの開催や地域防災計画の市民説明会を行いました。

帰宅困難者対策では、吉祥寺駅周辺の民間事業者、交通機関、警察、消防、その他の行政機関等で構成する吉祥寺駅周辺混乱防止対策協議会による帰宅困難者対策訓練を実施しました。

災害用トイレの整備については、市内小・中学校の 4 校に災害用トイレ各 10 基を設置し、避難所の機能及び衛生環境の充実を図りました。

自主防災組織への支援については、災害時の活動に必要な資機材などの支給及び貸与を行い、支援の充実を図りました。

(8) 多様な危機への対応の強化

ホワイトイーグル、市民安全パトロール隊及びブルーキャップによるパトロール等を引き続き実施しました。また、吉祥寺ミッドナイトパトロール隊を発足させ、吉祥寺地域の 24 時間防犯パトロール体制の整備を行い、周辺住民の不安を解消するとともに、治安向上と犯罪の抑止力を高めることができました。

消費生活センターでは、消費生活相談、講座、悪質商法被害防止街頭キャンペーン等、消費者被害の未然防止啓発事業及び広報・周知活動を行いました。

IV 緑・環境

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

二酸化炭素排出削減行動助成事業については、家庭部門の二酸化炭素排出量の削減に向けて住宅用の太陽エネルギー利用設備・高効率給湯設備の設置に対する助成を実施しました。

幅広い層に向けた環境啓発イベントとして、むさしの環境フェスタを開催し、より多くの市民に様々な環境に関するテーマについて、学習の場の提供や啓発を図ることができました。

(2) 環境負荷低減施策の推進

多様な資源の効率的利用モデル検討事業では、中央図書館周辺等においてエネルギーの効率的な利用を図るため、エネルギーの面的活用や防災面のリスクマネジメント等、広範な観点から検討を行いました。

太陽光発電システムの設置事業については、第一中学校に自立運転機能付き太陽光

発電システムを設置しました。これにより、公共施設への再生可能エネルギーの導入を推進し、市内の公共施設のうち 24 施設 27 か所へ太陽光発電システムを設置しました。

LED 街路灯事業では、吉祥寺本町地区他 5 地区の小型水銀灯式街路灯 91 基を LED 化し、省エネ・省資源化を図りました。

環境舗装事業につきましては、雨水の流出抑制や地下水涵養を図るため生活道路改修の際に透水性舗装を施工し、また試験施工として道路集水桝雨水浸透化工事を行いました。

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

公園等建設事業では、吉祥寺の杜 宮本小路公園他 3 か所の用地買収や本田東公園他 4 か所の新設・拡充工事を実施しました。緑地の拡充とともに、魅力的で安全安心の潤いのある都市環境推進を図りました。

千川上水整備事業では、次年度整備予定区間の詳細設計と、関前橋～千川橋の整備工事を行い、親水や身近な自然とのふれあいの場として、より魅力のある空間づくりを進めています。

仙川水辺環境整備事業については、めがね橋や桜堤公園付近の一部において、自然護岸への環境整備を実施したほか、既整備区間の維持管理等を行いました。

(4) 循環型社会システムづくりの推進

小規模事業者に対する事業系ごみの排出指導事業では、市内の小規模事業者に対して指導強化を実施し、適正排出率の向上を図りました。適正排出率は平成 19 年度の 44%から 81.2%へ向上しました。

新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業では、平成 29 年 4 月からの稼働を目指し、設計及び工作物解体・撤去・移設等の準備工事を実施しました。

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備事業につきましては、第三期施設・周辺整備協議会での協議結果を設計に反映させたほか、ごみ減量・環境啓発のイベントや講座などクリーンセンターやごみ処理に関する広報・啓発を実施しました。

京王吉祥寺駅ビル建替えに伴い、利用者が安心して快適に利用できる公衆トイレを井の頭線高架下に移転新設しました。

(5) 生活を取り巻く様々な環境の変化に伴う新たな問題への対応

放射線に関する事業については、引き続きクリーンセンター放射性物質測定や学校・保育園給食食材放射性物質検査、市民への簡易型放射線測定器貸出などを行い、市民の不安解消を図りました。

また、原発事故以降中止していた落ち葉等のたい肥化については、平成 25 年度より敷地内処理や閉所密閉管理の原則など一定のルール化を図りながら条件付きで再開しました。

V 都市基盤

(1) 地域の特性に合ったまちづくりの推進

景観道路事業では、景観整備路線事業計画の路線について道路プラン検討や電線共同溝設置等を行いました。

建築物の高さの最高限度の導入につきましては、都市計画原案、都市計画案公表時に説明会や意見募集を実施し、市民や事業者に対し丁寧な説明を行うとともに、その意見等を踏まえた制度の導入ができました。

景観まちづくりの展開では、良好な住環境と調和の取れた街並みの形成を進めるため、市民やまちづくり団体との連携を図りながら景観ガイドライン策定に向けシンポジウムを開催し、普及啓発を行いました。

(2) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

放置自転車対策事業については、駐輪場の整備、放置防止指導等により放置自転車のさらなる削減に努め、道路や駅前広場等公共の場所において良好な環境を確保しました。

(3) 道路ネットワークの整備

道路新設改良事業では、経年劣化した主要道路等の改修整備を行いました。市道第92号線については、高齢者や誰もが歩いて楽しいみちづくりを目指し、線形改良を行うとともに歩道を新設し、安全性の向上を図りました。

都市計画道路7・6・1号線事業については、玉川上水沿いの三鷹橋～むらさき橋間について、電線共同溝設置や道路詳細設計等を行いました。

(4) 下水道の再整備

雨水浸透施設助成事業では、住宅等に雨水浸透施設を設置する市民に対して助成金を交付し、治水、利水、水循環の推進を図りました。

公共下水道建設事業については、都市計画道路3・4・24号線及び主要地方道7号線等の道路整備に合わせ、下水道管きょを築造しました。

雨水貯留浸透施設設置事業については、大雨による浸水被害の軽減を図るために、第一中学校に600 m³の雨水貯留浸透施設を設置しました。これにより市立小中学校のうち12校に設置済みとなりました。

合流式下水道改善事業につきましては、善福寺川流域の水環境等の向上及び下流域の浸水被害の軽減を図るため、合流式下水道改善施設を整備しました。

武蔵野市下水道長寿命化計画に基づき、本市の広範囲の処理区を受け持つ主要管きょである、女子大通り幹線の更生工事を実施しました。

また、下水道経営の健全化を図るため武蔵野市下水道事業基金を設置しました。

(5) 三駅周辺まちづくりの推進

鉄道連続立体交差事業は平成 25 年度末に事業が完了し、南北一体となったまちづくりの推進を図ることができました。

武鉄中付第 1、第 2、第 3 号線整備事業では、街路築造工事を施工するとともに第 3 号線において連系引込管の設置も行いました。

吉祥寺駅改良整備事業については、JR 吉祥寺駅改良事業及び京王吉祥寺駅のビル建替え事業にあわせて、駅南北自由通路の拡幅・直線化の整備とともに、駅舎北側の庇設置を行い、回遊性の向上を図りました。

吉祥寺駅北口駅前広場整備事業では、広場の機能更新整備が完了し、来街者等が安全で快適に歩行できる環境を整備しました。

武蔵境駅北口広場を整備するため、用地買収や道路整備工事などを行うとともに、武蔵境駅舎周辺環境整備事業については、回遊性が高く、自然と調和する駅前空間を創出するため、武蔵境駅舎連続施設（北側）工事を前年度より引き続き行いました。

都道 123 号線拡幅整備事業では、武蔵境駅北口における道路拡幅予定地の買収及び電線共同溝設置工事等を行いました。また、市道第 291 号線と同時に交通開放をしました。

(6) 安全でおいしい水の安定供給

災害時にも安全でおいしい水を安定供給するため、配水管の新設や老朽管の更新等配水管路の耐震化を図り、耐震化率が 43.6%と前年度に比べ 1.5 ポイント上昇しました。

円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を計画的に維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため深井戸の更生工事を行いました。

VI 行・財政

(1) 市民視点に立ったサービスの提供

電子自治体共同運営では、電子申請サービス及び電子調達サービスを利用し、電子申請については、1,983 件の利用があり、電子調達については、入札対象範囲を順次拡大し、474 件の電子入札を行いました。

市税のコンビニエンスストアでの納付は、新たに固定資産税で利用できるようにし、納税方法の多チャンネル化を進めました。今後も市民の視点に立ったサービスの提供に取り組んでまいります。

(2) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に答える仕組みづくり

ホームページの運営事業では、市公式ホームページの全ページについて、スマートフォン対応とし、閲覧性の向上を図るとともに、ユーチューブを活用した「武蔵野市動画チャンネル」を平成 26 年 3 月に開設し、映像による情報発信機能を強化しました。また、高齢者、障がい者等の閲覧に配慮したアクセシビリティ方針を定め、継続的に改善を行うとともに、設定した目標への達成状況を調査しました。

ソーシャルメディアを活用した情報発信では、ツイッターに加えフェイスブックを活用し、より多くの方へ市政情報を届ける体制の整備に努めました。

市民と市長のタウンミーティングを地域別、テーマ別で実施するとともに青空タウンミーティングも行い、合わせて5回開催しました。

(3) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

公共施設の改良保全整備では、地震時エレベーター閉じ込め防止や小学校体育館天井改修等を市民会館や小学校などで実施しました。また、劣化保全整備では、劣化調査の結果に基づき小・中学校やその他公共施設において、機能維持及び延命化のための整備を行いました。

(4) 社会の変化に対応していく行財政運営

財政援助出資団体について、社会状況の変化に伴う公共サービスの担い手及び市民ニーズの多様化等を踏まえ、今後の在り方を検討し、財政援助出資団体の見直しに関する基本方針を策定しました。

住民記録・税・国保等の住民情報系システムについて、統合パッケージによる再構築を実施し、平成26年1月に新システムが稼働しました。セキュリティ対策の強化、システム間データ連携の複雑さの解消、仮想化基盤の構築等により、庁内全体の業務、情報システム及び費用の最適化を実現しました。

(5) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

職員が互いの仕事に関心を持ち、良い仕事をほめる組織風土を醸成するために、課または個人が取り組んだよい仕事に対する表彰制度を開始し、模範となる職務行動や工夫・改善の取り組みを全庁で共有することで、組織力の向上を図りました。

市民雇用創出事業については、市の業務を見直し、ワークシェアリングと求職者の生活支援を目的に市民の雇用を創出するという観点から嘱託職員223人の任用を行いました。

平成 25 年度主要な施策の概要と成果一覧

I 健康・福祉

(1) 支え合いの気持ちをつむぐ

(金額欄における予算は当初予算を計上)

	事業名	金額(千円)	施策の概要と成果
1	災害時要援護者対策事業 《民生費 ○社会福祉協議会事業》 [地域支援課]	予算 4,670 決算 4,255	市内全 13 地区で事業を実施した。8 地区で支援者探しを実施し、5 地区で更新作業(民生委員・児童委員個別訪問)を行った。また、地域の実情に応じた安否確認訓練、支援グッズの購入、地域社協との意見交換会(年 2 回)を行い、事業実施体制の強化を図った。
2	テンミリオンハウス事業 《民生費 ○テンミリオンハウス事業》 [高齢者支援課]	予算 91,935 決算 88,428	市内 7 カ所にあるテンミリオンハウスがミニデイサービスや緊急ショートステイ等、地域のニーズに応じた特色ある共助の事業を展開した。 テンミリオンハウスに通うことで、閉じこもり防止や趣味活動、仲間づくりの促進など、高齢者や乳幼児親子の生活の向上につながった。 ・川路さんち 開所日数 243 日 延利用人数 3,029 人 ・月見路 開所日数 288 日 延利用人数 4,124 人 ・関三俱樂部 開所日数 348 日 延利用人数(デイ)768 人 (ショート)408 人 ・そ~らの家 開所日数 301 日 延利用人数 6,257 人 ・きんもくせい 開所日数 298 日 延利用人数 5,426 人 ・花時計 開所日数 250 日 延利用人数(高齢者)4,988 人 (乳幼児)2,452 人 (児童) 360 人 ・くるみの木 開所日数 301 日 延利用人数 7,217 人
3	心のバリアフリー推進事業 《民生費 ○日常生活訓練事業》 [障害者福祉課]	予算 252 決算 252	障害のある方が地域生活を営むために必要な支援に関する基礎知識など、障害理解を促す体系的な講習会を地域住民等を実施した。 ・啓発講座 9 団体、延参加人数 944 人
4	被保護世帯援護事業 《民生費 ○生活保護法による扶助事業》 [生活福祉課]	予算 4,089,996 決算 3,824,049	生活保護法にもとづく各種給付を行った。前年度に比べ被保護世帯・人員は、143 世帯 2,587 人減少した(前年度 3 月末比)。 ・延世帯数 20,656 世帯、延人数 63,665 人

(2) 誰もが地域で安心して暮らしていける仕組みづくりの推進

5	権利擁護事業 《民生費 ○権利擁護事業》 [地域支援課]	予算 決算	24,423 23,876	市の成年後見推進機関である公益財団法人武蔵野市福祉公社に対して権利擁護支援事業補助金を支出し、権利擁護事業・成年後見制度の利用促進を図った。 また、判断能力が不十分なため成年後見申立てが必要で身寄りがない人について、市長申立てを10件実施した。
6	地域リハビリテーション推進事業 《民生費 ○地域リハビリテーション推進事業》 [地域支援課]	予算 決算	4,869 1,481	全ての市民が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができまわちづくりを目標に、多職種多機関の連携の推進、介護と医療の連携の推進、支援従事者への研修を実施した。 ・地域リハビリテーション推進協議会 年2回、在宅支援連絡会 年12回、その他(課題に応じたワーキング) 随時 ・緊急医療情報キット事業試行のため、関係機関を通じてキットを配布 430人 ・シンポジウム「わたしらしく暮らすための医療と介護」 240人 ・ケアマネジャーを対象とした専門研修会 3回 延131人 ・介護保険等事業所を対象としたスキルアップ・定着支援のための研修 5回 延355人 ・新任ケアマネジャーに対するケアプラン指導研修 対象者13人
7	障害者実態調査 《民生費 ○一般管理経費》 [障害者福祉課]	予算 決算	3,917 3,800	身体障害者手帳、愛の手帳(知的障害者)、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病者福祉手当受給者等を対象にアンケートによる調査、分析を行い、「武蔵野市障害者福祉に関する実態調査報告書」を作成した。当事者等の生活環境及び障害福祉サービスに対するニーズを把握し、武蔵野市障害者計画・第4期障害福祉計画策定の基礎資料等として使用している。 ・調査票発送数 5,804通、回収数 3,272通 (回収率56.4%)
8	みどりのこども館の管理運営 《民生費 ○みどりのこども館管理運営事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	93,600 91,778	主に就学前の子どもと保護者への支援を目的とする「みどりのこども館」内で、地域療育相談室ハビット、こども発達支援室ウィズ、おもちゃのぐるりんを運営し、平成25年度より障害児を対象とした計画相談事業を開始した。 ・ハビット 新規療育相談 143件、医療相談 47件 親子通園 13グループ ・ウィズ 登録者数 9人 ・おもちゃのぐるりん 利用児数 延6,422人 おもちゃ病院 230件 おもちゃ貸出数 435件
9	相談支援体制の強化 《民生費 ○障害者自立支援給付等事業○みどりのこども館管理運営事業○リハビリテーション事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	94,295 76,471	新たに、指定特定相談支援事業所として3事業所を指定し、障害児・者のサービス等利用計画作成を推進した。 また、相談支援専門員連絡会を発足させ、市内相談支援専門員間のネットワークの強化、計画相談に関するスキルの向上を図った。 ・サービス等利用計画作成数 222件(うち児童 20件)
10	地域自立支援協議会の運営 《民生費 ○障害者自立支援給付費等事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	1,350 782	地域における障害者及び障害児への支援体制に関する課題等について協議する地域自立支援協議会を6回開催した。くらす、はたらく、権利擁護、相談支援、障害当事者の専門5部会を月1回開催した。くらす部会においては、ヘルプカードを作成、配布した。

11	ケアマネジャーアンケート調査 《民生費 ○一般管理経費》 [高齢者支援課]	予算 決算	0 1,150	武蔵野市介護保険被保険者の利用実績が一定以上ある市内外のケアマネジャーを対象にアンケートによる調査、分析を行い「武蔵野市ケアマネジャーアンケート調査結果報告書」を作成した。ケアマネジャーの資質向上に必要なこと、介護保険制度改正に対する考え方を把握し、武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定の基礎資料等として使用している。 ・調査票発送件数 206 通、回収数 150 通（回収率 72.8%）
12	独居高齢者事態調査 《民生費 ○一般管理経費》 [高齢者支援課]	予算 決算	2,538 2,138	住民基本台帳における65歳以上単身世帯の高齢者にアンケート調査（第一次調査）を行い、調査協力者に対し、民生委員による訪問調査（第二次調査）を実施。その集計、分析を行い「武蔵野市独居高齢者実態調査報告書」を作成した。市内在住の独居高齢者の数や実態を把握し、要援護者に対して在宅サービスの充実を図るため、また武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定の基礎資料等として使用している。 ・調査対象者数 第一次調査 9,423 人 第二次調査 2,671 人 訪問調査数 2,445 人（内有効回答数 2,434 人）
13	高齢者見守り支援事業 《民生費 ○高齢者日常生活支援事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	7,436 3,719	独居高齢者や高齢者世帯を対象に、心疾患等のある方の緊急対応のための①緊急通報システム、②火災安全システムの設置・貸与、③遠方家族などにガス利用状況を通信する、独居高齢者の安否見守り支援事業などを実施した。このような事業と平行して、民生委員や事業者による孤立防止ネットワーク連絡会議を開催し、総合的な高齢者への見守り支援に繋がっている。 ・緊急通報システム 79 件 ・火災安全システムの貸与 4 件、防災用品の給付 2 件 ・ガス利用状況お知らせサービス利用助成 4 人 ・福祉電話貸与台数 49 台
14	認知症高齢者支援事業 《民生費 ○認知症高齢者支援事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	16,587 13,533	認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法について広く普及するため、啓発活動や相談事業を実施した。また、認知症高齢者及び家族への支援として、ヘルパーを派遣し、認知症高齢者見守り支援事業を実施した。相談事業の充実、普及啓発の推進、在宅生活支援の3つの柱に基づく事業によりその人らしく地域で生活を継続することに寄与している。 ・認知症サポーター養成講座 55 回 延 1,410 人 ・認知症相談事業 相談件数 95 人 ・認知症見守り支援事業 決定者数 30 人、登録者数 43 人 延利用時間 2,346 時間、延利用者数 311 人
15	高齢者実態調査 要支援・要介護高齢者実態調査 《介護保険事業会計 ○一般管理経費》 [高齢者支援課]	予算 決算	2,310 3,256	市内在住の要介護認定を受けていない65歳以上の市民、及び要介護認定を受けている65歳以上の市民を対象にアンケートによる調査、分析を行い、「武蔵野市高齢者実態調査 武蔵野市要支援・要介護高齢者実態調査報告書」を作成した。高齢者の生活実態、介護保険事業の利用意向、その他高齢者施策全般に係る意見・要望等を把握し、武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定の基礎資料等として使用している。 ・要介護認定を受けていない65歳以上市民 調査票発送数 1,500 通、回収数 1,141 通、回収率 76.1% ・要介護認定を受けている65歳以上市民 調査票発送数 1,500 通、回収数 942 通、回収率 62.8% 回収率計 69.4%

16	家族介護支援事業 《介護保険事業会計 ○包括的支援事業・任意事業費》 [高齢者支援課]	予算	18,224	家族介護者の負担を軽減し、在宅での介護を支援するため、介護家族の交流・情報交換の機会の提供、はいかい探索システムの貸与、家族介護用品（おむつ）の支給などを実施した。精神的、経済的、在宅支援の複合的な視点の事業により、家族介護者の負担軽減に繋がっている。 ・介護家族支援プログラム 実施回数 205回 ・はいかい高齢者等探索事業 設置台数 10件 ・家族介護用品の支給 延件数 1,539件
		決算	15,987	

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

17	食育講演会の実施 《衛生費 ○一般管理経費》 [健康課]	予算	590	家庭における食育の推進を図るため、健康推進計画の食育の基本方針に基づき、生活習慣病予防等につながる食の選択力をテーマとした講演会を実施した。また講演会に合わせて食育に関する展示、体組成計を用いた測定会も併せて行い、食への意識の向上がみられた。 ・参加人数 66人
		決算	404	
18	未熟児養育医療給付事業 《衛生費 ○未熟児養育医療給付事業》 [健康課]	予算	26,488	体重が2,000グラム以下または2,000グラム以上でも生活力が特に弱い乳児で、医師が入院養育の必要を認めたものに対し、医療費を給付した。機能が未熟であり、疾病にかかりやすく、死亡率が高い未熟児に対し、必要な医療の給付を図った。なお、この事業は、平成25年度より東京都から移管された事業である。 ・給付対象者数 25人（認定 30人）
		決算	7,249	
19	予防接種事業 《衛生費 ○予防接種事業》 [健康課]	予算	357,295	定期接種化された子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌の各ワクチンを含め、四種混合（ジフテリア、百日ぜき、破傷風、不活化ポリオ）、麻しん風しん、日本脳炎等の定期予防接種を実施したほか、高齢者肺炎球菌、先天性風しん症候群対策事業として行った成人向けの予防接種事業も併せて行い、疾病の発生及びまん延の予防を図った。
		決算	321,414	
20	がん検診受診率向上事業 《衛生費 ○老・成人保健事業》 [健康課]	予算	4,409	昨年度実施したアンケート調査結果をもとに、受診率の伸び悩んでいるがん検診の対象者に対し、受診勧奨や再勧奨を行い受診率向上を図ったほか、勧奨しない場合との比較による効果をまとめた。 ・子宮がん検診受診者数 7,666人
		決算	3,502	
21	元気アップ高齢者訪問相談事業 《介護保険事業会計 ○介護予防事業費》 [高齢者支援課]	予算	3,753	生活機能チェックリストの未回答者等を対象に、在宅支援の必要性の確認のための訪問調査を臨時職員を任用して実施した。未回答者1,886人に対して実施し、544人に面談を行いチェックリストを回収した。問題が発生した場合は在宅介護支援センターに相談するよう紹介している。
		決算	2,332	

(4) 誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり

22	障害者就労支援センターあ いるの運営 《民生費 ○心身障害者在宅 等援護事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	35,085 35,072	職業相談、就労準備支援、職業定着支援など総合的な就労支援を実施した。また、ハローワーク、就労支援事業所、特別支援学校などを含む学校、企業などとのネットワークを活用して情報の共有化を推進するとともに、セミナー等を開催し、地域における啓発活動を行った。 ・登録者 289人（うち新規登録者 37人）、新規就職者 37人 ・「障がい者の就労を考えるつどい2013」参加人数 138人
23	引きこもりサポート事業 《民生費 ○精神障害者援護 事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	5,007 5,007	当事者、家族に対する電話や来所・訪問等による相談、普及啓発の一環として、家族セミナーや講演会等を実施した。当事者支援のため、活動場所として吉祥寺ハモニカ横丁に期間限定で店を開くなど新しい企画を実施した。 ・相談事業 778件、新規相談登録者 23件 ・家族セミナー 7回、延参加人数 245人 ・講演会 2回、延参加人数 127人 ・チャレンジマルシェ 7日間、延参加人数 77人

(5) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

24	グループホーム等給付事業 《民生費 ○障害者自立支援 給付費等事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	224,739 238,684	住み慣れた地域での生活を継続するため、グループホーム新設に向けての開設支援、家賃助成、給付費の支給などを行った。 ・「きたまちハウス」(知的障害) 14人分新規開設
25	サービス基盤整備事業 《民生費 ○介護保険施設等 整備事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	17,500 0	小規模多機能型居宅介護の整備については、平成24年度に単独型で公募を行ったが応募者がなく、平成25年度に改めて認知症高齢者グループホーム併設型として再度公募を行った。しかし、応募事業者はなく整備を見送った。
26	介護保険利用者負担額助成 事業（5%助成） 《民生費 ○介護保険事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	28,801 26,047	介護保険を利用する低所得者に対し、訪問介護サービス利用料10%のうち5%分の助成を行った。このことにより、低所得者の経済的な負担軽減がなされ、安心した在宅サービスの継続を図った。(予算額・決算額は扶助費のみ) ・介護保険利用者負担額助成事業 実支給人数 949人、支給件数 9,112件
27	通所サービス利用者食費助 成事業（200円助成） 《民生費 ○介護保険事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	15,125 13,316	介護保険を利用する低所得者に対し、通所サービス利用時にかかる食費のうち、一食あたり200円の助成を行った。低所得者の経済的な負担に伴う通所サービス利用抑制の軽減を図った。(予算額・決算額は扶助費のみ) ・通所サービス利用者食費助成事業 実支給人数 846人、延交付食数 66,614食

II 子ども・教育

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

1	第四次子どもプラン武蔵野の策定 《総務費 ○児童対策事業》 [子ども政策課]	予算 決算	5,685 5,402	すべての子どもたちが健やかに育ち、家庭が安心して子育てできるように、平成27年度から5年間を実施期間とする「第四次子どもプラン武蔵野」を市町村子ども・子育て支援事業計画を包含して策定中。平成25年度はアンケート調査やヒアリング、ワークショップ等を実施し、ニーズの把握に努めた。
2	私立幼稚園等助成事業 《総務費 ○私立幼稚園等助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	349,777 311,080	私立幼稚園及び私立幼稚園等園児保護者の負担を軽減することで、引き続き幼児教育の振興を図ることができた。 ・幼稚園への補助 37,615,133円 ・保護者への補助 267,726,200円
3	保育の質の向上の取組み 《民生費 ○一般管理経費》 [子ども育成課]	予算 決算	7,911 2,745	認可保育所における保育の質の維持・向上の取組みとして、保育園カウンセラーによる公立・協会立保育園の巡回カウンセリングを行い、保護者対応の助言などを行った。また、ガイドラインの保育部会を開催し、保育士が各園で作成しているプログラムや保育の実施例などを相互に持ち寄り、検討を進めた。
4	子ども家庭支援センター事業 《民生費 ○子ども家庭支援センター事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	31,348 29,285	子どもとその家庭に対する相談事業、子育てショートステイ等を実施し、子育て支援ネットワークの中核機関として各機関との連携を進め、子育てに不安を持つ家庭を適切に支援することができた。 ・相談事業延活動件数 15,232件
5	グループ保育事業 《民生費 ○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	37,499 40,096	0歳～2歳児の乳児を対象に、UR都市機構の物件を活用した「ひまわり保育室みどり、さくら、まぁーる（平成25年7月開設）」、「どんぐり保育室」やマンションの1室を利用したとことこ保育室「にことこ」などのグループ保育室に対して、運営費の補助を行った。
6	認可外保育施設入所児童保護者助成金 《民生費 ○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	95,740 79,089	認証保育所や家庭福祉員のほか、新たにグループ保育室を利用している児童の保護者に対して助成を行った。また、所得に応じた支給基準（所得階層により月額0円～最大3万円支給）を設けて低所得者に対する助成額を拡大させた。 ・助成実績 実人数1,231人 延べ月数4,636月
7	認証保育所2園の誘致 《民生費 ○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	58,348 50,549	グローバルキッズコトニア吉祥寺園（平成25年3月開設、定員40人）、グローバルキッズ武蔵境園（平成26年4月開設、定員40人）を開設し、新たに80人の定員を確保した。これらの開設準備経費等に補助を行った。
8	賃貸物件活用グループ保育（緊急待機児対策） 《民生費 ○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	0 35,231	平成26年3月とことこ保育室みいとこ（定員9人）、平成26年4月に吉祥寺南町すみれ保育園（定員15人）を開設し、新たに定員24人を確保した。

9	乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業 《民生費 ○乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	503,726 491,596	乳幼児及び義務教育就学児の医療保険診療自己負担分を助成した。 医療費助成額 467,616,815 円 対象児童数 乳幼児 7,651 人（前年度比 312 人増） 義務教育就学児 8,729 人（前年度比 114 人増） 助成件数 乳幼児 140,307 件 義務教育就学児 118,355 件
10	0123施設の管理・運営 《民生費 ○0123施設の管理運営》 [子ども政策課]	予算 決算	92,964 88,436	0～3歳までの乳幼児の豊かな育ちとその親の子育てを支援するため、(公財)武蔵野市子ども協会に管理運営を委託した。前年度より利用者数がさらに増加し、遊びや交流が活発に行われた。 延利用者(子ども)数:吉祥寺17,140人、はらっぱ26,422人
11	境こども園運営事業 《民生費 ○保育所運営委託事業》 [子ども育成課]	予算 決算	253,649 182,120	(公財)武蔵野市子ども協会による認定こども園「境こども園」については当初平成26年4月開設予定であったが、施工業者の倒産により竣工が遅れ、4月から竣工までの間は市民会館内での長時間保育「さかい分園」と児童館内での短時間保育「さくら分園」により代替事業を実施した。10月に園舎の工事が完了し、12月に「境こども園」(定員:短時間保育4～5歳46人、長時間保育1～5歳61人)を開設した。同協会に対して建設費や管理運営費の補助を行った。
12	子ども協会立保育園事業 《民生費 ○保育所運営委託事業》 [子ども育成課]	予算 決算	1,280,354 1,235,571	平成25年4月より新たに市立保育園3園(桜堤、東、境南第2)を(公財)武蔵野市子ども協会へ移管した。また、平成23年度に子ども協会へ移管した北町保育園の移転改築工事に対する補助を行い、受入枠32人分の拡充(定員128人)を図った。
13	児童手当支給事業 《民生費 ○児童手当支給事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	1,672,787 1,682,214	中学校修了前の児童の保護者に児童手当を支給した。平成24年6月から児童手当所得制限実施により所得制限限度額以上の者に特例給付を支給した。 児童手当支給額 1,363,695,000 円 受給者数 6,802 人 対象児童数 9,979 人 特例給付支給額 311,760,000 円 受給者数 3,456 人 対象児童数 5,294 人
14	児童扶養手当等支給事業 《民生費 ○児童扶養手当等支給事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	386,464 377,792	ひとり親家庭等や障がいのある児童の保護者に対する児童扶養手当・児童育成手当を支給した(所得制限あり)。 児童扶養手当支給額 206,575,570 円 受給者数 496 人 児童育成手当支給額 164,823,000 円 児童数(育成手当 960 人、障害手当 80 人)
15	ひとり親家庭アンケート調査委託 《民生費 ○一般管理経費》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	994 836	第四次子どもプラン策定に向けて、平成25年8月に「ひとり親家庭アンケート調査」を実施し、支援に対するニーズ等の把握を行った。対象は離婚、死亡、未婚等の申請要件に該当する児童育成手当を受給するひとり親(配布数636人、有効回収数247人(回収率38.8%))。
16	ひとり親家庭医療費助成事業 《民生費 ○ひとり親家庭医療費助成事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	25,853 21,723	ひとり親家庭等に対し、医療保険診療自己負担分(課税世帯は一部)を助成した(所得制限あり)。 医療費助成額 20,927,552 円 受給世帯数 445 世帯 受給対象者数 679 人 助成件数 8,608 件

17	ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業 《民生費 ○ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	10,735 5,187	修学、就労、疾病又は生活環境の変化等により、一時的に家事、育児等の日常生活の援助を必要とするひとり親家庭にホームヘルパーを派遣し、生活の安定を図った。 ・実世帯数 18世帯（前年度比11世帯減） ・派遣日数 993日（前年度比204日減）
18	児童館を活用した緊急待機児対策事業 《民生費 ○緊急待機児童対策事業》 [子ども育成課 児童青少年課]	予算 決算	0 22,883	ひまわり保育室まある（平成25年7月開設、定員10人）を移転し、桜堤児童館2階を利用した緊急待機児対策の準備を実施した。平成26年4月より定員を22人増やし、計32人のグループ保育の施設の開設準備を行った。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実

19	幼児期の教育の振興を図るためのプログラムの策定 《総務費 ○児童対策事業》 [子ども育成課]	予算 決算	101 100	平成24年度に設置した幼児教育振興研究委員会の報告書に基づき、家庭や地域を含めた総合的な幼児期の教育の振興を図るための取組について、学識経験者の助言を受けながら、庁内委員会を設置し検討した。
20	子育て支援事業 《民生費 ○子育て支援事業》 [子ども政策課]	予算 決算	16,781 16,639	子育て家庭の孤立防止を主な目的とした「すくすくスタート試行事業」や子育てを応援する機運醸成等を目的とした「まちぐるみ子育て応援事業補助金」、親や地域の子育て力向上のための事業などを実施した。地域での子育てを支える取組みが充実した。 ・すくすくスタート試行事業 登録者数242人 ・まちぐるみ子育て応援事業補助金 2,000,000円（1,000,000円×2事業） ・ひろば事業 延参加者数12,618人 ・親支援講座 延参加者数137人 ・子育てひろばボランティア養成講座 実参加者数57人

(3) 青少年の成長・自立への支援

21	市立自然の村管理運営 《総務費 ○市立自然の村の管理運営》 [児童青少年課]	予算 決算	40,313 39,099	青少年をはじめとする多くの市民が利用しやすい施設とするため、長野県南佐久郡川上村にある市立自然の村の施設の管理運営、利用促進バスの運営、天体観望会などを委託し、実施した。また、客室棟の照明をLED化する等の維持修繕を行なった。青少年に対しては、豊かな自然に親しみ、その中で過ごしてもらうことで、健全育成につながった。 ・宿泊利用人数 延5,933人、利用促進バス11回運行（うち1回中止） 延153人利用
22	むさしのジャンボリー事業 《総務費 ○むさしのジャンボリー事業》 [児童青少年課]	予算 決算	13,564 12,648	武蔵野市青少年問題協議会地区委員会との共催事業として、2泊3日のキャンプを12回実施した。中高生のサブリーダーや地域の指導者とともに、参加した小学生の自立心や創造性、自然への興味と理解などが育まれた。 ・市立自然の村 参加者1,460人 （小学校4～6年生児童941人、指導者322人、サブリーダー197人）

23	青少年問題協議会の運営と 地区委員会活動の推進 《総務費 ○青少年問題協議 会・地区活動事業》 [児童青少年課]	予算 決算	11,432 10,844	市の青少年に対する総合的施策の実施を推進し、青少年の健全育成を図るため、青少年問題協議会定例会、専門部会の開催及び地区委員会の活動に対する補助を行った。青少年の健全育成に関わる様々な機関が情報の共有や意見交換を行い、相互の連携を図った。専門部会では、高校生世代を中心とした若者支援の施策について研究を行い、事業化に向けて中間取りまとめを行った。また、それぞれの地区委員会の活動の促進を図った。 ・市内12地区委員会1,461人
24	青少年活動育成 《総務費 ○青少年活動育成事 業》 [児童青少年課]	予算 決算	24,297 21,768	・中高生リーダー講習会：126人（参加申込数） ・善行表彰：3人、1グループ ・自然体験指導者講習：非開催 ・青少年団体バス借上げ：バス借上げ30団体、講師謝礼補助7団体 ・冒険遊び場公園（プレーパーク）：総来場者数14,869人 イベント：大型2回、小型26回 ・二俣尾自然体験：2日実施、11家族40人 ・遠野市との児童交流：派遣児童11人 ・遠野市家族ふれあい自然体験（岩手県遠野市）：参加者18家族61名 ・親子棚田体験（新潟県長岡市）：参加者 春（田植え）11家族30人 /秋（稲刈り）11家族35人 これらの事業により青少年の健全育成を図り、また、家族の交流が深まった。
25	ハバロフスク市青少年交流 事業 《総務費 ○ハバロフスク市 青少年交流事業》 [児童青少年課]	予算 決算	4,080 3,967	武蔵野市・ハバロフスク市青少年相互交流に関する協定書に基づき、青少年交流団として、12～18歳の青少年12人、随行員3人を7泊8日の日程でハバロフスク市より受け入れた。
26	子どもを守る家関連推進事業 《総務費 ○子どもを守る家 関連推進事業》 [児童青少年課]	予算 決算	1,474 1,306	「子どもを守る家」「自転車防犯帯」協力員の拡大及び活動の意義・目的の再認識と情報提供を行ったことにより、地域社会全体で子どもを見守っているということの周知ができた。子どもが自ら身を守ることを意識づけを目的とした「CAPワークショップ」を実施した。このことにより、子ども自身及び保護者の安全意識の醸成を図った。 ・子どもを守る家1,970件、自転車防犯帯3,365件（H25.12月現在）
27	地域子ども館事業 《民生費 ○地域子ども館事業》 [児童青少年課]	予算 決算	127,135 123,334	小学生が安全かつ健全に放課後等を過ごし、仲間づくりや異年齢交流を行うことができるように、学校施設を利用した地域の居場所・遊び場を提供し、小学生の健全育成を図った。 ・延参加児童数451,893人
28	学童クラブ事業 《民生費 ○学童クラブ事業》 [児童青少年課]	予算 決算	194,904 200,236	市内在住で小学校低学年の、放課後監護に欠ける児童の健全育成を行った。地域子ども館 あそべえとの連携をすすめ、土曜日開所を本格実施した。これにより、対象児童の安全確保及び健全育成と、保護者の就労等の支援を図った。 ・15クラブ 定員815人 在籍数（年間平均）766人（民間学童クラブ含む）

29	子ども文化・スポーツ・体験活動事業 《総務費 ○青少年活動育成事業》 《教育費 ○学級・講座開催事業○文化財保護普及事業○保健体育総務費一般管理経費》 [児童青少年課、生涯学習スポーツ課]	予算 決算	1,920 1,446	子どもたちが文化活動やスポーツ、野外活動を通して新たな発見や驚きを肌で感じることで豊かな心や感性を育み、心身ともに健康な体をつくるため、基金を活用して体験活動を実施した。 学級・講座事業（親子 de サイエンス 参加者 320 人、むさしの発見隊 参加者 78 人、まゆだまづくり教室 参加者 22 人） 文化財活用講座（井の頭自然文化園動物観察教室参加者 30 人） 自然観察ハイキング（みなみらんぼうさんと自然観察ハイキング 参加者 28 人） 次世代担い手育成キャンプ 参加者 13 人
----	---	----------	----------------	--

(4) 子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備

30	児童館運営事業 《民生費 ○児童館の管理運営》 [児童青少年課]	予算 決算	15,922 20,358	子どもたちの健全育成を目的として、乳幼児親子と小・中学生を対象に、健全な遊びと安全な居場所の提供及び子育て支援を実施した。境こども園の完成が遅れたため、4月から11月半ばまで2階で境こども園を実施した。平成26年4月から緊急待機児対策として、2階部分を利用した「ひまわり保育室まあーる」を実施するため、2か月改修工事を行い、準備態勢を整えた。 ・事業回数 259 回、参加者延 10,480 人 ・一般来館者 延 21,661 人、総計 延 32,141 人
31	泉幼稚園跡地利用施設の建設 《民生費 ○泉幼稚園跡地利用施設事業》 [子ども政策課]	予算 決算	192,636 189,691	子どもの健やかな育ちと子育て家庭への支援を目的として、旧泉幼稚園跡地に、子育てひろば機能、グループ保育機能、夜間・宿泊を含む一時預かりサービス機能を地域の力で提供する子育て支援施設を建設するため、平成25年度は土地を購入したほか、基本・実施設計を経て工事に着手した。平成26年7月末開設。

(5) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

32	小学校副教材「武蔵野市のいま・むかし」作成 《教育費 ○副読本・教師用教科書等給与》 [指導課]	予算 決算	1,749 1,370	市民性を高める教育の一環として、市立小学校において、本市の歴史や文化等について学び、地域や社会への認識を一層深め、主体的に地域社会に貢献する児童の育成を図るため作成した。学年や教科領域にとらわれず、幅広く使用できる教材として26年度から使用する。
33	教育相談事業（不登校対策の推進） 《教育費 ○教育相談事業》 [教育支援課]	予算 決算	70,833 68,682	教育支援センター、学校、子ども家庭支援センター等関係機関が連携を強化し、いじめ・不登校・発達障害などの相談・支援を行った。また、東京都「学校と家庭の連携推進事業」を3校が活用し、不登校傾向にある児童・生徒の支援を行った。 ・延来所相談件数 3,275 件 延学校派遣支援件数 6,148 件 ・学校と家庭の連携推進事業実施校 3 校
34	少人数指導及び学習支援教室等の推進 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	30,918 26,752	学級内及び学級の枠を超えた弾力的編成による少人数指導、小1プロブレム等への対応を行い、個に応じた指導の充実を図った。また、学習につまずきのある児童生徒への支援を図るため、希望者に対して放課後等に学習支援教室を実施した。きめ細かな指導により、一人一人の学びの状況に応じた指導をすることができた。

35	小学校外国語活動指導助手の配置 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	7,959 7,652	市立小学校に4人のALT(外国語活動指導助手)を配置し、教員とともに外国語活動を実施した。外国語に対する興味や関心を高めるとともに、積極的にコミュニケーションをとる児童が増えた。 ・市立小学校全12校・5、6年生・1学級年間35時間
36	小学校高学年における理科指導員の配置 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	9,864 9,299	市立小学校に理科の専門性の高い指導員を配置し、質の高い授業を行った。観察、実験を通して児童の理科への関心を高めることができた。 ・市立小学校10校(都の加配教員配置校2校を除いた全ての小学校) ・5、6年生・1学級年間70時間
37	小学校 ICT 機器の拡充 《教育費 ○情報教育指導》 [指導課]	予算 決算	5,026 4,452	ICTを活用しやすい環境を充実させるため、小学校12校に書画カメラ(実物投影機)・プロジェクター・電子黒板等のICT機器を増やした。モデル校3校とそれ以外の学校とで導入台数に差を設けて配置した。
38	中学校無線LAN再構築(教育用コンピュータ導入を含む) 《教育費 ○情報教育指導》 [指導課]	予算 決算	10,440 10,642	中学校普通教室における無線LAN環境の導入効果を検証するため2校をモデル校として普通教室及び特別教室の一部に無線LAN環境を構築するとともに、そこで使用する教育用コンピュータを各13台導入した。
39	セカンドスクール 《教育費 ○セカンドスクール》 [指導課]	予算 決算	125,083 113,038	市立小学校5年生、中学校1年生において、農山漁村等における長期滞在型の体験学習を行うセカンドスクールを実施した。また、小学校4年生において、短期宿泊体験学習であるプレセカンドスクールを実施した。子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくみ、課題解決への意欲や態度を養った。年度末に小中学校教員の実践報告会を行い、ねらいの再確認や体験活動の情報共有ができた。
40	音楽クラブ楽器購入・修繕 《教育費 ○特色ある教育活動の奨励事業》 [指導課]	予算 決算	7,837 7,189	市立小中学校15校において、吹奏楽クラブ等の楽器購入及び老朽化した吹奏楽器の修繕を行い、長期的に使用できるようにした。子どもたちの音楽活動を支援し、音楽への興味関心を高め、活動の幅を広げることができた。
41	校舎・体育館非構造部材耐震化工事 《教育費 ○校舎等施設維持管理》 [教育企画課]	予算 決算	193,086 139,944	東日本大震災の被害事例を踏まえ、調査の結果改修が必要とされた校舎・体育館の窓ガラス飛散防止フィルムと体育館の天井材の更新工事を行った。(一小、二小、三小、四小、五小)
42	特別支援教育推進事業 《教育費 ○特別支援教育推進》 [教育支援課]	予算 決算	25,918 22,593	専門家スタッフ(大学教授等)を各小・中学校に計133回派遣、サポートスタッフ(心理学を専攻する大学院生等)登録者33名を延865回派遣、ティーチングアシスタント(教員を希望する学生等)登録者100名を延1,772回派遣し学校教育の充実を図った。また、特別支援教室指導員研修会を実施し、専門性の向上を図った。

43	特別支援学級の運営 《教育費 ○知的障害学級運営○難聴・言語障害学級運営○肢体不自由学級運営○院内病弱学級運営○情緒障害学級運営》 [教育支援課]	予算	106,551	介助員等の配置、スクールバスの配車を行い、特別支援学級（知的障害学級、難聴・言語障害学級、肢体不自由学級、院内病弱学級、情緒障害学級）の運営を行った。また、井之頭小学校に本市3番目の情緒障害等通級指導学級を平成26年度開級に向けて整備した。
		決算	91,972	

Ⅲ 文化・市民生活

(1) 地域社会と市民活動の活性化

1	コミュニティセンターの管理運営及びコミュニティ活動 《総務費 ○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算	389,102	コミュニティセンターの管理運営を指定管理者である16のコミュニティ協議会に委託し、市民による自発的なコミュニティづくりが活発に行われた。館の維持管理と基盤整備を行い、コミュニティづくりのための安全で快適な空間を確保した。
		決算	346,945	
2	地域のつながりの共有とコミュニティセンター機能の検討 《総務費 ○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算	3,000	「これからの地域コミュニティ検討委員会」を設置（平成25年9月～平成26年11月）し、本市のコミュニティの現状と課題に対して、地域コミュニティのあり方について議論を重ねた。年度末には中間提言のとりまとめに向けての意見交換を行った。
		決算	2,786	
3	市民活動促進事業 《総務費 ○市民活動促進》 [市民活動推進課]	予算	2,912	平成24年3月に策定した市民活動促進基本計画に基づき、市民活動促進事業及び職員向け研修を実施した。市民及び市民活動団体等向けの講座等事業を3種類・5回、職員向け研修を1回実施した。市民活動促進情報誌を3回発行し、市民活動団体等に送付したほか、平成25年4月より市民活動に関するフェイスブックの運用を開始した。市民、市民活動団体、職員の市民活動や協働に関する意識を高めるきっかけとなった。
		決算	2,968	

(2) 互いに尊重し認め合う平和な社会の構築

4	平和啓発事業 《総務費 ○平和・憲法啓発事業》 [市民活動推進課]	予算	2,661	非核都市宣言平和事業実行委員会とともに、夏季平和事業や平和の日イベントにおいて、パネル展や講演会などを開催し、市民の平和への意識向上を図った。また、若い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを分かりやすく継承していく目的で、平和啓発DVD「武蔵野の戦争体験を語り継ぐ～平和を願って～」を作成した。現在市HP上で公開している他、図書館での貸し出しや市内公立中学校へ配布した。
		決算	1,956	
5	男女共同参画施策の推進 《総務費 ○男女共同参画推進委員会等》 [市民活動推進課]	予算	18,916	男女共同参画推進委員会（平成24年10月～平成25年10月）の報告を受けて第三次男女共同参画計画を策定した。男女共同参画社会の実現に向け、むさしのヒューマン・ネットワークセンターにおける各種講座を開催するとともに、情報誌「まなこ」の発行や男女共同参画フォーラムを実施し、意識啓発を図った。 ・講座実績：16企画26講座。延参加者数531人、託児延44人
		決算	17,004	

(3) 市民文化の醸成

6	市民文化会館改修基本計画の策定 《総務費 ○市民文化会館の管理運営》 [市民活動推進課]	予算 決算	5,775 5,775	開館から30年余を迎え、経年劣化・老朽化と天井の耐震化、バリアフリー等への対応が喫緊の課題となったことから、大規模改修を行うための基本計画を策定した。
7	観光推進機構の充実 《商工費 ○観光振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	38,245 37,623	平成22年度に設立した観光推進機構の効率的かつ機動的な運営を行うため平成25年7月に組織を独立化し一般社団法人武蔵野市観光機構に改組した。 ・観光推進委員会の運営→改組後：理事会、社員総会の運営 ・各実行委員会の運営 ・観光情報の集積と発信 ・フィルムコミッション事業 ・平成26年度吉祥寺駅まち案内所設置に向けた準備
8	文化財保護普及事業 《教育費 ○文化財保護普及事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	24,403 22,244	文化財の保存と活用を目的とし、文化財保護委員会議の開催、民俗資料の調査収集・展示、埋蔵文化財の発掘調査などを行った。また、古文書解説講座、むさしのばやしちびっこ教室、むさしの発見隊等の講座を運営した。 平成26年度開設予定の歴史資料館(仮称)に、本事業の主管を移管することを検討するとともに、民俗資料の整理作業を進めデータベース化し、文化財システムの構築準備を進めた。
9	歴史資料館開設準備事業 《教育費 ○歴史資料館開設準備事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	32,176 16,624	「武蔵野市歴史資料館(仮称)整備計画(平成25年3月)」に基づき、平成25年4月から教育委員会を所管とし、開設準備を進め、平成25年11月「武蔵野市歴史資料館(仮称)管理運営基本方針」を策定した。この基本方針に基づき展示設計等業務委託を行い、展示基本設計を平成26年3月に作成した。旧西部図書館の上下水道設備の一部改修を行ったほか、廃棄公文書のデータ化作業に取り組んだ。

(4) 市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

10	むさしのサイエンスフェスタ 《教育費 ○学級・講座開催事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	1,608 1,328	大野田小学校を会場に市立小・中学校教員や地域ボランティア、地元の大学や企業等の協力を得て科学実験ブースを設置し、広く小・中学生に科学の不思議さ、面白さを体験する機会を提供し、学ぶ意欲の向上を図った。 来場者は1100名と大盛況であった。地域と学校教育が連携しながら、身近な科学実験を体験できるイベントとして定着してきている。
11	土曜学校事業 《教育費 ○土曜学校事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	2,694 2,065	学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として、小・中学生を対象に、学校休業日の土曜日に体験活動を中心としたプログラムを実施した。平成25年度は15種類の講座を実施した(スポーツプログラム・武蔵野プレイス実施分を含む)。 定員を超える応募も多く、学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として認知されている。
12	図書館資料収集・保存 《教育費 ○図書館資料収集・保存事業》 [図書館]	予算 決算	130,950 128,518	市立図書館の蔵書の増加により、図書資料の充実を図った。 【蔵書数】 平成25年3月末 813,460冊 平成26年3月末 837,768冊 【増減数】 中央図書館 : 図書 17,253冊、CD 113点、DVD 89点 吉祥寺図書館 : 図書 590冊、CD 91点 武蔵野プレイス : 図書 6,465冊

13	児童を対象とした図書サービス 《教育費 ○読書指導事業○児童サービス事業》 [図書館]	予算 決算	10,714 10,095	「としょかんこどもまつり」、「おはなし会」、「むさしのブックスタート」、「読書の動機づけ指導」、「子ども文芸賞」等の事業を引き続き実施し、保護者や子どもたちに対する読書推進活動を行った。また、「武蔵野市子ども読書活動推進計画」に基づき、みどりのこども館での出張おはなし会と図書の貸出サービスを開始し、「配慮の必要な子どもたちへのサービス」の充実を図った。
14	ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスの管理運営 《教育費 ○一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	530,544 496,049	「図書館」をはじめとした「生涯学習支援」、「市民活動支援」、「青少年活動支援」の4つの機能を併せ持つ活動支援型の複合施設として管理運営及び各種事業を行った。 平成25年度年間来館者数 約160万人 図書館機能と青少年活動支援機能の連携事業やプレイスフェスタなど、複合機能施設としての特徴を活かした館内機能連携事業に取り組んだ。
15	国体・障害者スポーツ大会推進事業 《教育費 ○国体・障害者スポーツ大会推進事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	63,694 54,005	スポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会）を開催。ラグビーフットボール競技：9月29日～30日、観客3,309人。バスケットボール競技：10月4日～8日、観客6,775人。グランドソフトボール競技：10月12日～14日、観客910人。大会に向け、ノベルティグッズの配布やイベント開催など広報活動を実施するとともに、花いっぱい運動やボランティアなど市民との協働による大会運営を行った。

(5) 地域の特性を活かした産業の振興

16	勤労者互助会補助 《労働費 ○勤労者互助会の運営補助》 [生活経済課]	予算 決算	20,704 20,704	市内の中小企業の事業主及び勤労者を対象に、福利厚生事業等を行う勤労者互助会へ補助金を交付した。勤労者互助会では主な事業として、福利厚生事業、共済金給付事業、退職金共済掛金補助事業、健康維持増進に係る事業等を行った。
17	認定農業者経営改善支援補助事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,500 2,417	認定農業者の経営改善に要する事業費の一部を補助し、経営改善計画達成の支援を行った。補助制度を利用した農業の機械化等が行われ、作業効率の向上を支援した。 ・7件、事業費7,452,851円、補助金2,417,000円
18	こうのとりのベジタブル事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	1,863 1,670	新生児が誕生した家庭に市内農産物の引換券（200円券10枚）を贈り、地産地消と食育の推進を図った。市内農産物を求める若い世代が増え、リピーターになっている。 ・1,428人へ14,280枚を配布、利用枚数7,819枚 （JA=3,417枚、アンテナショップ=3,315枚、直売所=1,087枚）1,616,900円 ・こうのとりのベジタブル券印刷費=53,550円
19	登録農地育成事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,000 510	市と農地の保存協定を結んだ農家へ、農業近代化のための施設整備や農機具購入費用の一部の補助を行った。保存年限は10年、補助回数は2回。これにより、農地の保全を図った。 ・2件、5,198㎡、事業費1,379,071円、補助金510,000円

20	都市農業経営パワーアップ事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	7,500 11,250	施設整備により、年間を通じて、作物を共同直売所や学校給食に安定供給できるようになった。結果、農地の効率的な利用と、農業経営力の向上を図ることができた。 施設整備にあたっては、東京都・市が支援チームとして、その成果状況を確認しながら、継続して支援・相談を行った。 ・1申請団体（構成農家数4戸・パイプハウス5棟建設）、総事業費16,216,660円、東京都補助金7,500,000円、市補助金3,750,000円
21	市民農園維持管理事業 《農業費 ○市民農園の管理運営》 [生活経済課]	予算 決算	14,981 15,125	園芸を通じて土に親しむとともに市民相互の交流と農地の保全のため、市民農園の維持管理を行った。現在、市内の市民農園9か所746区画で、市民の利用が図られている。
22	商工振興事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	24,990 27,497	次の事業に対し支出を行い、商業振興を図った。（団体への補助を除く） ・武蔵境ジャズセッション事業（実施委託）2月22日（土）武蔵野スイングホール 来場者数…約480人 委託費989,100円 ・商店街装飾街路灯電気料補助事業 上半期…37商店会分8,415,700円 下半期…35商店会分6,092,100円 ・駅周辺商業活性化事業（駅前イルミネーション） 12,000,000円 ジャズセッション、イルミネーションは商業活性化のみならず、市外から集客できる恒例行事として定着し、観光振興にも寄与している。また、商店街の街路灯はまちの賑わい創出及び防犯や交通安全に効果をあげている。
23	武蔵境活性化委員会補助事業（商工会議所補助事業） 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,840 2,840	「ほっとタウン武蔵境」をキーワードに活性化委員会により計画された事業のうち、ホームページや紙媒体広報物の作成など情報発信にかかる経費及び委員会運営費の補助を行った。委員会の活動は、武蔵境地区の活性化事業として年間を通じ、地元商店会・地元住民だけでなく、学生をはじめとした大学、病院、金融機関、生産農家など幅広い参加者を集めている。
24	Musashino ごちそうフェスタ 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	4,500 4,500	市民・来街者の方に武蔵野市の飲食や食品店で買い物を通して地元の“食”を知ってもらうためのキャンペーンとして「飲食・食品店ガイドブック」の作成・配布、「物産・逸品市」11月23日（土・祝）、「武蔵野地粉うどんレシピコンテスト」を実施した。（主催：武蔵野商工会議所）
25	商店会組織力強化のための企画提案型事業補助事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,000 5,196	商店会の振興を図り、もって地域商業の活性化に寄与することを目的として、武蔵野市内の商店会からの企画提案に基づき、商店会の組織力を強化するための方策を支援する事業を行う団体に対し、事業に係る経費の一部を補助した。商店会の自主的な発案を促し、「新・元気を出せ商店街事業」の対象とならない小規模な事業及び実験的な事業、または複数の商店会の共同事業の実施手段として活用されている。 実施件数：19事業

26	新・元気を出せ商店街事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	67,689 49,183	商店街支援事業として、東京都と連携した新・元気を出せ商店街事業を実施し、商店会の活性化を図った。 ・イベント事業 23件 38,375,000円 ・活性化事業 4件 10,808,000円
27	商店街装飾街路灯 LED 化事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	0 4,651	環境問題への配慮と、防災や治安対策に積極的に取り組む商店会への支援として、商店会が水銀灯街路灯をLED化する経費について一部を補助した。平成25年度は3商店会で実施。実施後は電気使用量が1/2～1/4となり、環境負荷の軽減に大きく寄与している。
28	商店街まちづくり事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	0 3,749	中小企業庁が所管する「商店街まちづくり事業」の補助を受け、まちの安全・安心のための施設・設備の整備等を行う商店会に対し、商店会負担分の1/2相当を市が補助する制度を創設。国補助率：2/3（税抜）、市補助率：1/6（税込）。市内の商店会の防犯カメラ設置に活用された。 実績：11商店会、防犯カメラ設置台数：90
29	産業振興に関する方針の策定 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,500 6,405	平成24年度の産業構造基礎調査を基に本市で初となる産業振興のための計画を策定した。策定にあたり、行政、市内商工農業、金融機関、企業の関係者及び学識経験者・公募市民による策定委員会と庁内に産業振興推進本部を設置し、幅広い意見集約を行うとともに実行性の高い計画を策定した。事務局として、主管課と商工会議所が連携し、機動的な策定を図ることができた。
30	路線商業活性化総合支援事業 《商工費 ○路線商業活性化総合支援事業》 [生活経済課]	予算 決算	7,300 7,300	路線商店街において、複数の商店会が合同で実施するスタンプ事業の支援及び空き店舗を活用したコミュニティスタジオ事業を展開し、「にぎわい」、「ふれあい」の創出や商品の販売促進を通して、活力ある商店街づくりを支援した。スタンプ事業は中央地区の「むチュースタンプ」、武蔵境地区の「ファミリースタンプ」として地域住民に定着し、各地区の商業振興に不可欠な存在である。
31	吉祥寺ウェルカムキャンペーン補助 《商工費 ○吉祥寺地区商業活性化事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,300 6,300	吉祥寺の街をPRし、来街者の増加及び吉祥寺商業の活性化を目指す年2回（春秋）のキャンペーンのイベントに対して補助を行った。吉祥寺の恒例行事となり、安定した集客力を持つイベントとして定着した。 ・大吉祥抽選会（春） 参加者：41,399人 ・アニメワンダーランド（秋） 参加者：32,307人
32	吉祥寺アニメフェスティバル 《商工費 ○吉祥寺地区商業活性化事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,277 2,276	アニメ産業が集積する本市の産業振興及び都市観光推進を目的としてイベントを実施した。吉祥寺ウェルカムキャンペーンのアニメワンダーランドと合わせ、「アニメのまち吉祥寺」のイメージ定着に役立っている。 ・3月8日（土）スタジオディーン上映会、吉祥寺まちなかLIVE～アニメMix～、吉祥寺アニメーション映画祭受賞作品上映会 参加者：約720人 ・3月9日（日）親子プラモデル教室、吉祥寺まちなかLIVE～リデイングシアター～、スペシャル上映会 参加者：約734人

33	中小規模事業者への補助事業 《商工費 ○利子補給等事業》 [生活経済課]	予算 決算	68,955 51,420	市内の中小規模事業者やこれから創業する者に対し、融資のあ っせん、利子および信用保証料の一部補助を行ってきたが、25 年9月より対象の事業者の範囲を拡大し、より幅広い支援を行 った。 ・中小規模事業者事業資金融資利子補給 1,771件 31,083,466円 ・中小規模事業者事業資金融資信用保証料補助 162件 14,130,874円 ・小規模事業者経営改善資金融資利子補給 116件 2,539,236円
----	--	----------	------------------	---

(6) 都市・国際交流の推進

34	アメリカ・ラボック市との 交流事業 《総務費 ○アメリカ・ラボク ク市との交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	3,574 2,610	第25回武蔵野市ジュニア交流団としてアメリカ合衆国テキサ ス州ラボック市等へ市内在住中学生16人、引率者3人を派遣 した。NASA宇宙センター等の見学後、ラボック市に入り、ホ ームステイ2泊を含め交流を図った。 期間：7/21～7/30
35	中国との相互交流事業 《総務費 ○中国との相互交 流事業》 [交流事業課]	予算 決算	1,757 1,393	中国から10回目となる受入れ事業として「北京市月壇中学青 少年交流団」 中高生12人、引率者3人を受け入れた。ホ ームステイ2泊を含め、都立武蔵高校での生徒交流、都内及び富士 周辺の見学等を実施し、交流を図った。 期間：1/21～1/27
36	韓国との相互交流事業 《総務費 ○韓国との相互交 流事業》 [交流事業課]	予算 決算	2,804 1,759	大韓民国忠州市へ3回目となる中高生12人、引率者3人の訪 問団を派遣した。ホームステイ2泊、韓国武道テッキョン体験 などを通じて交流を図った。 期間：8/2～8/5 ソウル特別市江東区から4回目となる中高生12人、引率者3人 の訪問団を受け入れた。ホームステイ2泊、浅草や江戸東京た ても園散策などを通じて交流を図った。 期間：8/29～9/2
37	ルーマニア・ブラショフ市 との交流事業 《総務費 ○ルーマニア・ブラ ショフ市との交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	8,821 8,224	ルーマニア国ブラショフ市に設置されている日本武蔵野セン ターを拠点に、日本語教室や日本文化紹介イベント等を実施し た。4月にはブラショフ市で日本語を学ぶ学生4人がブラショフ市副市 長を団長に来訪した。 期間：4/4～4/10 同センター所長の現地化に伴い、本市との密接な連絡調整や日 本文化研修も兼ね、所長を本市に招へいた。 期間：1/9～1/21
38	国際交流協会事業 《総務費 ○国際交流協会事 業》 [交流事業課]	予算 決算	59,250 59,250	国際交流協会が実施する在住外国人に対する日本語教室・相談 事業の実施や、在住外国人との交流をはじめとする市民レベ ルの国際交流活動を支援するため、運営補助金を交付した。
39	友好都市交流事業 《総務費 ○友好都市交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	5,450 3,089	国内友好都市間の交流ツアーや友好都市宿泊施設の利用助成 を通じて、市民レベルでの交流促進を図った。今年度は安曇野 市、南房総市、岩美町、大崎上島町への市民ツアーを行うと ともに、南砺市からの市民交流団を受け入れた。なお岩美町のツ アーは交流10周年を記念し実施した。

40	友好都市アンテナショップ運営事業 《商工費 ○友好都市アンテナショップ運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	4,996 4,699	友好都市のPRや物産品の販売、観光情報の発信などのために設置したアンテナショップを拠点に、友好交流、友好親善及び地元商店街の活性化を図った。友好都市の新鮮な産品を扱う店として固定客を獲得し、友好都市のPR及び地元商店街の振興に寄与している。
----	--	----------	----------------	--

(7) 災害への備えの拡充

41	耐震アドバイザー派遣事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	6,668 1,785	市内に存する木造で個人が所有する昭和56年以前に建てられた住宅（共同住宅含む）を対象とし、簡易耐震診断を希望する者に、耐震診断アドバイザーを派遣した。 【派遣件数30件】
42	建築物耐震性相談事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	1,260 428	市内に存する建築物の所有者に対し、耐震性等の構造に関する無料相談窓口を開設した。 【窓口開設日16日】【相談件数24件】
43	耐震診断助成事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	8,100 8,379	市内の建築物の耐震化を促進するため、所有者が耐震診断を受けた場合に、その費用の一部を助成した。 【木造52件】【非木造1件】【マンション2件】【民間建築物（木造）5件】
44	民間住宅耐震改修助成事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	33,000 55,233	市内住宅の耐震化を促進するため、所有者が市の定める診断機関によって行った耐震診断の結果に基づき耐震改修を行った場合に、その費用の一部を助成した。 【木造58件】【非木造0件】【マンション0件】
45	安全・賑わいのまちづくり促進型耐震助成 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	3,600 0	商業地域等内にある昭和56年以前に建てられた民間の事業用建築物で、商業活性化の基盤となる地区の耐震安全性を向上するため、耐震事業に要する費用の一部の助成を行う。 【助成件数0件】
46	緊急輸送道路沿道建築物耐震化推進事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	238,856 149,901	特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を促進するため、耐震化に要した費用の一部を助成した。 【診断25件】【設計3件】【改修（建替え・除却含む）4件】
47	防火水槽新設工事 《消防費 ○防火水槽・消火栓新設等事業》 [防災課]	予算 決算	64,050 55,887	火災時の消防水利を確保するため、耐震性の防火水槽4基を新設した。 ・設置場所 緑町1丁目6番地内40t、吉祥寺本町3丁目27番地内100t、吉祥寺東町4丁目6番地内40t、吉祥寺東町1丁目17番地内100t

48	地域防災計画（平成 25 年修正）の推進 《消防費 ○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	6,413 7,101	地域防災計画（平成 25 年修正）の内容を広く市民に周知し、防災意識と防災行動力の向上をはかるため、市民説明会の開催や改訂した防災ハンドブックを全戸配布した。また、関係機関との連携のため、計画書を作成し内容の共有を行った。 ・市民説明会 開催回数 3回、延参加者数 206人 ・防災シンポジウム 東日本大震災の教訓を後世に継承し、地域防災力の向上を図るため、「未来につなげよう防災の取り組み」をテーマに、防災シンポジウムを開催した。参加者数 141人
49	災害時医療対策検討委員会の設置 《消防費 ○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	1,348 1,069	大規模災害発生時において円滑な医療機能を確保するため、災害時医療救護本部の役割・組織、災害医療コーディネーター及び緊急医療救護所の設置、並びに医薬品等供給体制等について検討した。 委員数 19人、委員会開催数 5回
50	帰宅困難者対策 《消防費 ○防災訓練事業》 [防災課]	予算 決算	1,533 538	大規模災害発生時に帰宅困難者が発生することを想定し、平成 26 年 3 月 11 日に吉祥寺駅周辺の民間事業者、交通機関、警察、消防、その他の行政機関等の連携により、吉祥寺駅周辺帰宅困難者対策訓練を実施した。 参加者数 271人
51	災害用トイレの整備 《消防費 ○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	78,217 56,120	避難所の機能及び衛生環境の充実を図るため、第三小学校、第四小学校、千川小学校及び第二中学校の各校に災害用トイレ各 10 基（一般用 8 基、だれでもトイレ 2 基）を設置した。関連工事として、周辺舗装や樹木の移設工事等を実施した。
52	自主防災組織を中心とした自助共助の推進 《消防費 ○防災啓発事業》 [防災課]	予算 決算	1,747 1,043	地域で活動している自主防災組織に対し、災害時の活動（初期消火、救助、地域住民の安否確認など）に必要な資機材（スタンドパイプ・大型消火器・台車等）の支給及び貸与を行うことで、支援の充実を図った。

（８） 多様な危機への対応の強化

53	生活安全対策（ホワイトイーグル、ブルーキャップ、ミッドナイトパトロール、市民安全パトロール隊） 《総務費 ○生活安全対策事業》 [安全対策課]	予算 決算	99,171 114,474	25 年 2 月に吉祥寺で発生した強盗殺人事件を踏まえ、関係機関や地元商店会を中心とした「吉祥寺緊急安全対策会議」を設置。まちの安全安心向上のための総合的な対策について検討を重ね、25 年 4 月から深夜帯をパトロールする吉祥寺ミッドナイトパトロール隊を発足させ、各種パトロール隊との連携により吉祥寺地域の 24 時間の防犯パトロール体制の整備を行い、周辺住民の不安を解消するとともに、市内の治安向上と犯罪の未然防止に繋がった。 <各種パトロール隊の活動時間帯> ・ホワイトイーグル：6名、午前 7 時 30 分～午後 7 時（土曜 午前 9 時～午後 7 時） ・ブルーキャップ：11名、平日午後 1 時～9 時（水曜正午～）、土日祝日午後 6 時 30 分まで ・吉祥寺ミッドナイトパトロール隊：2～3名、午後 9 時～午前 7 時 30 分（毎日） ・市民安全パトロール隊：67名、登下校時を中心に随時
----	---	----------	-------------------	---

54	消費生活センターの管理運営 《商工費 ○消費生活センターの運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	16,109 17,189	消費生活センターの管理運営、消費生活相談 (1,053 件)、消費生活講座(11 回、うち 1 回見学会)、夏休み親子教室 (3 回)、消費生活展 (10/11~12、武蔵野プレイス)、消費者団体への助成 (1 回)、悪質商法被害防止街頭キャンペーン (3/25、F & F ふれあいデッキこもれび)、その他消費者被害の未然防止啓発事業 (出前講座 7 回) を実施した。また、消費者行政活性化補助金により、リーフレットの作成 (5 種類、計 117,500 枚) 及び FM 放送 (日曜含む毎日 2 回) を実施し、消費者被害未然防止のための広報・周知活動を推進した。
----	--	----------	------------------	--

IV 緑・環境

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

1	二酸化炭素排出削減行動助成事業 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	18,010 27,887	住宅用の太陽エネルギー利用設備・高効率給湯設備の設置に対する助成を実施し、家庭部門の二酸化炭素排出量の削減を図ることができた。 【助成対象設備及び助成件数】 太陽光発電システム：102 件 太陽熱温水器：1 件 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム：91 件
2	むさしの環境フェスタ 《衛生費 ○環境対策推進事業○新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業》 [環境政策課 クリーンセンター ごみ総合対策課 下水道課 緑のまち推進課]	予算 決算	4,758 2,304	幅広い層に向けた環境啓発イベントとして、むさしの環境フェスタを開催した。 市民（団体）・事業者によるブース出展や小学生による自由研究作品の展示、その他環境に関する催し等を実施した。 【来場者数】 3,000 人 境南ふれあい広場公園に会場を変更したことで、より多くの市民に、エネルギー・廃棄物・緑・水等様々な環境に関するテーマについて、学習の場を提供し、啓発を行った。
3	緑の表彰・顕彰制度 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	576 400	将来の緑豊かなまちづくりを目指し、緑の保護・育成に取り組み、地域に貢献している個人、市民団体、企業及び開発事業者等を顕彰することにより、緑化に対する意識向上、及び緑化の推進、緑の保全による潤いのある快適な生活環境の創出を図った。 【内容】 平成 25 年度（第 5 回）は事業開始から 5 年間の節目として、過去 4 回の実施内容を総括した啓発冊子を作成し、情報提供・啓発に努めた。
4	緑ボランティア団体事業助成 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	3,600 3,022	市立公園等を拠点として緑の保全、緑化推進及び公園等の維持に関する活動を行っている緑ボランティア団体に対し、その事業経費の一部を助成し、団体の活動の発展を促すとともに、緑豊かな生活環境の確保を図った。 【登録団体】 緑ボランティア 24 団体

(2) 環境負荷低減施策の推進

5	多様な資源の効率的利用モデル検討 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	4,000 3,990	平成24年度の「新たなエネルギー活用検討委員会」の提言を受け、公共施設が集中するエリア（中央図書館周辺等）においてエネルギーの効率的な利用を図るため、エネルギーの面的活用や防災面のリスクマネジメント等、広範な観点から検討を行った。 本検討の結果導き出されたモデルを基に庁内横断的に連携を図り、今後予定されている中央図書館改修計画等において、検討内容を反映させる調整等を行った。
6	太陽光発電システムの設置 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	36,020 22,680	再生可能エネルギーの普及や環境教育への活用、公共施設の防災機能の強化を図るため、第一中学校に自立運転機能付き太陽光発電システム（設備容量30kW）を設置した。 これにより、公共施設への再生可能エネルギーの導入を推進し、24施設27か所へ太陽光発電システムを設置した。 公共部門の率先的な取組みとして、公共施設の再生可能エネルギーの導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減等を行うことができた。
7	LED街路灯事業 《土木費 ○街路灯維持管理》 [道路課]	予算 決算	10,000 8,348	環境負荷の低減及び省エネ、省資源化を図るため、小型水銀灯式街路灯をLED化した。 ・吉祥寺本町地区30基、吉祥寺南町地区4基、中町地区11基、西久保地区21基、関前地区3基、境南地区22基、計91基
8	環境舗装事業 《土木費 ○環境舗装事業》 [道路課]	予算 決算	67,800 56,774	生活道路改修の際に透水性舗装を施工し、雨水の流出抑制や地下水涵養を行った。また、試験施工として道路集水桝雨水浸透化工事を行った。 ・路線施工延長930.7m、L形工699.2m、舗装面積2,026㎡

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

9	生物多様性保全事業 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	1,000 370	生物多様性に関する啓発を行うためシンポジウムの開催等を行ったほか、『武蔵野市生きものマップ』を増刷し、各小中学校や公共施設での配布を行い、生物について関心を持ってもらうきっかけをつくることができた。 【参加者数】 11人 【増刷部数】 3,000部
10	公園等建設事業 (千川上水整備事業を除く) 《土木費 ○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	1,215,213 1,350,140	公園緑地の拡充とともに魅力的で安全安心の潤いのある都市環境推進を目指し4公園緑地の用地買収、1公園の新設、4公園の拡充に伴う改修工事等を行った。 【用地購入】 吉祥寺の杜 宮本小路公園、769㎡ 木の花小路公園、686㎡ 青葉公園、551㎡ グリーンパーク緑地、173㎡ 【主な新設、改修等】 吉祥寺の杜 宮本小路公園新設（平成26年3月31日供用開始）1,719㎡ 木の花小路公園拡充（686㎡）1,393㎡ 本宿東公園拡充（350㎡）697㎡ 八幡町いこいの広場（204㎡）505㎡ 本田東公園（旧下水ポンプ場公園等）2,439㎡

11	千川上水整備事業 《土木費 ○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	25,000 19,005	親水や身近な自然とのふれあいの場として水と緑のネットワークにおける、より魅力のある空間を創出する。 平成25年度は、次年度整備予定区間の詳細設計と関前橋～千川橋の区間450mの整備工事を行った。 【内容】 千川上水整備設計業務委託（平成26年度事業の詳細設計） 千川上水整備工事（休養施設の更新、散策路の整備・改修）
12	未来へ育て！苗木すくすく大木計画 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	1,550 1,327	緑豊かな都市環境の創出を目指し、減少傾向にある民間の緑を育み、緑の質を高めることを目的とし、「一般配布」、「新築記念樹」等、配布方法及び対象を様々な展開していくことによって相乗的な緑化推進、啓発効果を図った。 【配布実績】 新築記念樹105本（6月、9月、12月、3月）、一般配布94本（配布樹種：ハナミズキ、コブシ、シマトネリコ、イロハモミジ、ヒメシヤラ）
13	二俣尾・武蔵野市民の森の充実と奥多摩の森林整備 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	8,142 7,866	水源かん養、地球温暖化防止など森林の多面的機能に着目しながら、自然体験学習とともに森林保護・育成を推進した。森林の持つ公益的機能の充実、及び活用から、自然環境・保護の関心を高め、持続可能な都市の実現を目指す。 【内容】 ・二俣尾・武蔵野市民の森の森林整備等委託：「二俣尾・武蔵野市民の森に関する協定書」に定める協定区域7.02haのうち、森林整備区域4.09haの整備、利用啓発区域2.93haの活用、森の市民講座の実施5回 ・森林整備啓発事業（自然観察会）の実施：5回 ・二俣尾自然体験館の維持管理 ・奥多摩・武蔵野の森の森林整備委託：「奥多摩・武蔵野の森に関する森林整備協定書」に定める協定区域のうち3.3haの整備
14	保存樹林等の指定 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	10,375 9,070	民有地の緑を守る一環として、環境緑地や保存樹林等指定制度を設け、所有者の適正な維持管理を支援するため、助成金の交付、樹木医の派遣、倒木保険への加入等を行った。 【平成26年3月末時点】 保存樹木総数788本、生垣総数131箇所・総延長3,799m、保存樹林総数4箇所・総面積7,773㎡ 【樹木診断】 7箇所
15	仙川水辺環境整備事業 《土木費 ○仙川水辺環境整備事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	73,350 65,178	「仙川リメイク」に基づき河川付替えに伴う、めがね橋や桜堤公園付近の一部において、自然護岸への環境整備を実施した。合わせて既整備区間の維持管理、次年度に実施予定の設計業務委託を行った。 【内容】 仙川水辺環境整備工事（①桜堤公園部及びめがね橋付近の護岸整備、②導水システムの検討と詳細設計及び導水管敷設の詳細設計を行った。③導水管敷設、④河川転落防止柵設置等） 仙川水辺環境整備業務委託 仙川緑地外1箇所維持管理委託（仙川緑地及び整備済み河川の維持管理作業委託）

(4) 循環型社会システムづくりの推進

16	小規模事業者に対する事業系ごみの排出指導事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	7,770 7,770	市内約4,800の小規模事業者に対して、事業系ごみを家庭ごみとして排出している事業者の指導強化を実施し、適正排出率の向上を図った。訪問指導件数は123件(年間)。適正排出率は44%(平成19年度)から81.2%(平成25年度調査終了時)へ向上した。
17	レジ袋削減の推進 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	2,541 1,852	レジ袋削減を推進するための協定を結んだ市内スーパー12社やコンビニでキャンペーン、市内各商店街でフラッグ、ポスター掲示を行うなど、全市的にレジ袋削減の取組みを行うことにより、市民の環境に対する意識の変化、ライフスタイルの変化を促した。
18	剪定枝葉資源化事業集団回収事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課 環境政策課]	予算 決算	13,136 12,580	一般廃棄物として焼却されている剪定枝葉の一部を堆肥化して有効活用するとともに、燃やすごみの減量を図った。 搬入量 249.23 t 原発事故以降中止してきた落ち葉等のたい肥化については、敷地内処理や閉所密閉管理の原則など一定のルール化を図りながら、平成25年度より条件付で再開した。
19	集団回収事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	47,282 41,760	集団回収事業によって、資源の有効活用、ごみの減量及びごみ問題に対する市民の関心を高めることに取り組んだ。 188団体 回収量3,421 t
20	ごみ減量協働事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	991 885	青空市でのごみ排出指導、分別案内所等のごみ減量施策を市民団体との協働事業として実施することにより、市民への更なる啓発を行い、ごみ減量の推進を図った。
21	プラスチック製容器包装(硬質プラ)資源化事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	974 1,042	分別収集したプラスチック製容器包装のうち、小規模事業者に代わって市が再商品化の義務を負う分について資源化処理を行う事業を実施した。工程を市民に見学してもらうことで資源化推進の意識向上を図る。25年度は「夏休みごみ探検隊」参加者57人、「ごみの行方を知るツアー」参加者12人が見学した。
22	ごみ組成分析調査 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	12,205 13,270	ごみ減量のため、市内で排出されているごみの実相を把握するため、多角的な調査を実施した。この調査により、家庭系ごみの排出量に対する小規模事業者の排出ごみ量の影響、ごみ減量行動への世代別アプローチの重要性、非日常的に排出されるごみの影響等が明らかになった。
23	塵芥処理事業(収集委託料) 《衛生費 ○塵芥処理事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	1,114,890 1,106,515	平成21年度から、可燃・不燃ごみの一般収集業務を完全委託化するとともに、不燃ごみの収集回数を見直し、収集効率を向上させた。特別収集については、平成23年度の狭あい対象路線の完全委託化に続き、平成25年度にふれあい訪問収集の完全委託化を実現した。

24	クリーンセンター施設改修等工事 《衛生費 ○クリーンセンターの管理運営》 [クリーンセンター]	予算 決算	316,000 315,586	安全で安定的なごみ処理を図るため、焼却施設・粗大ごみ処理施設等の基幹設備の法定点検及び定期点検整備工事と施設や部品の劣化状況を見ながら計画的に改修工事を実施した。
25	新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業 《衛生費 ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業》 [クリーンセンター]	予算 決算	259,252 233,454	平成29年4月からの稼働を目指し、平成26年度からの本体工事着工に向けて、設計及び工事予定地内の工作物解体・撤去・移設等の準備工事を実施した。
26	新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備事業 《衛生費 ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業》 [クリーンセンター]	予算 決算	17,512 13,913	第三期施設・周辺整備協議会を設置し、新施設の煙突デザイン等の協議結果を設計に反映させた。また、ごみ減量・環境啓発のイベントや講座などクリーンセンターやごみ処理に関する広報・啓発を実施した。
27	ミカレット吉祥寺新設 《衛生費 ○公衆便所の維持管理》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	48,917 45,330	京王吉祥寺駅ビル建替えに伴い、平成20年より閉鎖していた公衆トイレ（ミカレット）を井の頭線高架下に移転新設し、利用者が安心して快適に利用できる公衆トイレの整備を行った。

(5) 生活を取り巻く様々な環境の変化に伴う新たな問題への対応

28	微量PCB廃棄物処理 《衛生費 ○環境対策推進事業事業》 [環境政策課]	予算 決算	1,628 893	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、保管しているPCB廃棄物のうち機器に含有する絶縁油等の処理を適切に実施した。 【処理対象】 大野田ポンプ所：トランス5台、その他開閉器ほか7台 旧桜堤小学校：トランス7台
29	放射線に関する対策 [保育課、環境政策課、クリーンセンター、緑のまち推進課、教育企画課、指導課、教育支援課、工務課]	予算 決算	10,715 6,856	空間放射線量測定、土壌中放射性物質分析調査、水質検査、学校・保育園給食食材放射性物質検査などを実施した。測定を確実かつ継続的に実施することで、安全・安心を図ることができた。また、それらを市民に情報提供することで、不安の解消を行うことができた。
30	害虫等駆除対策事業・狂犬病予防事業 《衛生費 ○害虫等駆除対策事業○狂犬病予防事業》 [環境政策課]	予算 決算	4,627 2,915	害虫等対策については、スズメ蜂等駆除80件、カラスの巣の撤去等20件、ネズミ侵入防止対策説明会等2回、ネズミ侵入防止対策支援事業7件を実施した。狂犬病予防事業に関しては、犬の新規登録319件、再交付52件、注射済票交付3,643件を行い、マナープレートの配付、動物愛護展や犬のしつけ方教室を実施し、動物愛護啓発の推進と飼い主マナーの向上を図った。

31	地域環境協働事業 《衛生費 ○公害対策事業》 [環境政策課]	予算 決算	500 497	生活公害の改善のため、地域猫対策協働事業に対して補助を行い、猫によるトラブルをなくし、人と猫が共存できるまちづくりを行った。
32	公害対策・調査・処理 《衛生費 ○公害対策事業》 [環境政策課]	予算 決算	22,053 17,624	常時監視と随時調査による環境状況の把握と確認、工場や指定作業所に対する指導、その他公害要因対象者への指導等を行った。公害苦情相談の受付対応を通じて、公害発生の未然予防、市内環境の保全を図った。 苦情の受付件数 518 件（大気 32 件、騒音 89 件、振動 12 件、悪臭 19 件、その他 366 件）
33	落書き対策消去事業 《衛生費 ○公害対策事業》 [環境政策課]	予算 決算	496 0	市民・商店会やボランティア団体による自主的なまちの安全と美化活動、落書き消去活動を支援した。

V 都市基盤

(1) 地域の特性に合ったまちづくりの推進

1	景観道路事業 《土木費 ○景観道路事業》 [道路課]	予算 決算	136,300 153,429	景観整備路線事業計画の路線について、道路プラン検討や電線共同溝設置等を行った。 ・道路プラン検討 市道第 17 号線、市道第 129・293 号線 ・電線共同溝設置 市道第 151 号線：施工延長約 80m ・街路灯設置 市道第 2 号線：18 基
2	建築物の高さの最高限度の導入 《土木費 ○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	6,505 4,219	都市計画マスタープランにおいて住環境の保全や景観の観点から建築物の高さの最高限度の導入を検討することとし、具体化を進めた。平成 24 年度は、高さ制限を導入するにあたっての市の基本的な考えを示した基本方針と都市計画素案を公表した。 平成 25 年度は、5 月 1 日に都市計画原案を公表し、5 回の説明会と意見募集を行い、11 月 15 日には、都市計画案を公表し、3 回の説明会と意見募集を行い、2 月 25 日に都市計画変更を行った。 市民や事業者に対し段階的に丁寧な説明を行うとともに、その意見等を踏まえた制度の導入ができた。
3	景観まちづくりの展開 《土木費 ○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	1,000 988	良好な住環境と調和の取れた街並みの形成を進めることを目的として、市民やまちづくり団体との連携を図りながら、景観ガイドラインの策定を進めるため、シンポジウムを開催した。市民の共有財産である景観を守り、魅力ある街並みを創出していくための市民の意識向上を図った。

(2) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

<p>4 自転車利用の環境と交通ルール・マナーの啓発</p> <p>《土木費 ○自転車対策事業》 [交通対策課]</p>	<p>予算 201,200 決算 201,060</p>	<p>駐輪場の整備、放置防止指導員の配置等により放置自転車の低減を図った。</p> <p>放置自転車台数（10月平日晴天11時） 吉祥寺駅周辺： 平成24年度 137台 ⇒ 平成25年度 69台（▲68台） 三鷹駅北口周辺： 平成24年度 59台 ⇒ 平成25年度 57台（▲2台） 武蔵境駅周辺： 平成24年度 116台 ⇒ 平成25年度 58台（▲58台） 市内放置合計： 平成24年度 312台 ⇒ 平成25年度 184台（▲128台）</p>
<p>5 公共交通機関の利用促進</p> <p>《土木費 ○ムーバス運行事業》 [交通対策課]</p>	<p>予算 73,625 決算 59,459</p>	<p>市内にあるバス交通空白・不便地域の解消を図るため、ムーバスを運行した。</p> <p>●ムーバス利用実績 年間乗客数／1日平均乗客数 総合計 2,621,023人／7,188.7人 吉祥寺東循環 403,963人／1,106.7人 吉祥寺北西循環 611,593人／1,675.6人 境南東循環 204,759人／562.5人 境南西循環 237,848人／653.4人 三鷹駅北西循環 273,515人／749.4人 境西循環 276,740人／760.3人 境・東小金井線 200,140人／549.8人 三鷹・吉祥寺循環 280,955人／769.7人 境・三鷹循環 131,510人／361.3人</p> <p>●ムーパーク利用実績 収容台数：40台 年間利用台数：20,547台 1日平均：56.3台（土日休1日平均：61.1台）</p>

(3) 道路ネットワークの整備

<p>6 道路新設改良事業</p> <p>《土木費 ○道路新設改良事業》 [道路課]</p>	<p>予算 304,872 決算 245,161</p>	<p>経年劣化した主要道路等を改修整備した。市道第92号線については、仙川交差部の線形改良及び河川区域との付け替えとともに歩道を新設し、高齢者や誰もが歩いて楽しい道づくりを目指し安全性の向上を図った。</p> <p>・路線施工延長1,996.1m、L形工771.0m、舗装面積7,484㎡</p>
<p>7 区画道路整備事業</p> <p>《土木費 ○区画道路整備事業》 [道路課]</p>	<p>予算 70,747 決算 66,576</p>	<p>事業着手済みである区画道路の用地測量、用地買戻し、用地買収に伴う仮整備等を行った。</p> <p>・用地買戻し 市道第293号線：約37㎡</p>
<p>8 狭あい道路拡幅整備事業</p> <p>《土木費 ○狭あい道路拡幅整備事業》 [道路課]</p>	<p>予算 54,710 決算 42,903</p>	<p>安全で快適なまちづくりを推進するため、特定行政庁と連携しながら狭あい道路の拡幅整備を行った。</p> <p>・整備延長：約2,322m、整備面積：約473㎡</p>

9	都市計画道路 3・4・27 号線事業 《土木費 ○都市計画道路 3・4・27 号線事業》 [道路課]	予算 決算	15,711 1,334	JR 中央本線（三鷹駅～立川駅間）他連続立体交差事業により高架化が完了し、南北一体のまちづくりに向け、用地取得を進めている。 H25 年度 用地測量 ・用地買収進捗状況 用地買収率：約 70%
10	都市計画道路 7・6・1 号線（御殿山通り）事業 《土木費 ○都市計画道路 7・6・1 号線事業》 [道路課]	予算 決算	91,750 86,520	景観整備路線事業計画の早期事業化路線である玉川上水沿いの三鷹橋～むらさき橋間について、電線共同溝設置や道路詳細設計等を行った。 ・電線共同溝設置 施工延長約 400m ・用地買収進捗状況 用地買収率：約 97%

(4) 下水道の再整備

11	臭気対策支援事業 《下水道事業会計 ○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	3,000 1,500	悪臭の原因となる地下排水槽（ビルピット）の改修改善に係る費用の一部を助成し、臭気の軽減を図った。 ・助成件数 3 件
12	公共下水道管きよ現況調査・清掃委託 《下水道事業会計 ○下水道維持管理事業》 [下水道課]	予算 決算	50,000 50,527	道路陥没事故や管きよ閉塞による悪臭等を未然に防ぐため、下水道本管、取付管の損傷や土砂等の堆積物の調査及び清掃を行った。 ・管きよ等清掃 6,930m、管きよ等調査 47,758m
13	雨水浸透施設助成事業 《下水道事業会計 ○下水道維持管理事業》 [下水道課]	予算 決算	20,000 7,278	住宅等に雨水浸透施設を設置する方に対して助成金を交付し、雨水浸透施設の設置推進を通じ治水、利水、水循環の推進を図った。 ・助成件数 29 件
14	下水道建設負担金 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	68,153 66,376	本市が排出する汚水の処理を依頼している東京都の水再生センター及び関連下水道幹線等の施設に係る建設費を負担した。
15	公共下水道建設事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	97,100 78,346	都市計画道路 3・4・24 号線及び主要地方道 7 号線等の道路整備に合わせ、下水道管きよを築造した。
16	雨水貯留浸透施設設置事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	61,000 58,627	大雨による浸水被害の軽減を図るために、第一中学校に 600 m ³ の雨水貯留浸透施設を設置した。これにより市立小中学校のうち 12 校に設置が完了した。

17	合流式下水道改善事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	3,447,000 2,233,192	善福寺川及び神田川流域の水環境の向上を図るため、合流式下水道改善施設を整備した。善福寺川排水区（吉祥寺東町一丁目）には8,500 m ³ の貯留槽、神田川排水区（吉祥寺南町三丁目及び井の頭二丁目）には総計1,000 m ³ の貯留槽及び貯留管を施工中であり、25年度に貯留槽及び貯留管の設置が完了し、合流改善施設としての機能を確保した。また、未施工部分にかかる費用として15億4,800万円を翌年度へ繰り越した。
18	雨水貯留施設設置事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	608,850 313,789	吉祥寺北町地区の大雨による浸水被害の軽減を図るために、北町保育園の建替えに合わせ貯留量4,500 m ³ の雨水貯留施設設置工事に着手し、26年度に事業完了予定である。未施工部分にかかる費用として1億7,600万円を翌年度へ繰り越した。
19	公共下水道耐震化事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	30,000 28,382	市内の下水道の耐震化については、平成17～21年度にかけて実施済みであるが、現場条件等により未施工箇所がある。そのため、未施工箇所の耐震化については、平成24～26年度の3ヶ年で計画しており、25年度は56箇所の耐震化を実施した。
20	女子大幹線管きよ更生事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	217,300 205,845	平成23年度に策定した武蔵野市下水道長寿命化計画に基づき、本市の広範囲の処理区を受け持つ主要管きよである、女子大通り幹線の更生工事を実施した。 施工延長L=113.9m

(5) 三駅周辺まちづくりの推進

21	鉄道連続立体交差事業 《土木費 ○鉄道連続立体交差事業》 [まちづくり推進課]	予算 決算	306,992 230,694	東京都に対し鉄道連続立体交差事業負担金を支出した。 西武多摩川線：平成18年12月に高架化工事完了。 JR中央本線：三鷹～国分寺間高架化工事のうち、下り線は平成19年7月に完了。上り線は平成21年12月に完了。国分寺～立川間高架化工事のうち、下り線は平成21年1月に完了。上り線は平成22年11月に完了。駅舎工事は平成25年1月に完了。側道（武鉄3）が平成25年度完了。鉄道連続立体交差事業（三鷹～立川間）全体としては、平成25年度末に事業完了。 これにより、誰もが安心して通行できる歩行空間の確保や、南北一体となったまちづくりの推進を図ることができた。
22	武鉄中付第1、第2、第3号線整備事業 《土木費 ○武鉄中付第1、第2、第3号線整備事業》 [道路課]	予算 決算	28,537 44,147	JR中央本線（三鷹駅～立川駅間）他連続立体交差事業の最終年度である平成25年度は、武鉄中付第3号線の街路築造工事（都施行）に合わせ、連系引込管設置を実施し、また、武鉄中付第1号線及び武鉄中付第2号線の街路築造工事を実施した。 ・連系引込管設置（電力系・通信系）：武鉄中付第3号線 ・街路築造：武鉄中付第1号線及び第2号線（各市施行）
23	吉祥寺方式物流対策事業 《土木費 ○吉祥寺方式物流対策事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	4,251 3,822	吉祥寺方式物流対策委員会の自立と継続的な活動に向けて運営支援を行い、委員会を3回開催した。また、地元事業者等が主体となった荷さばきルール徹底週間を継続的に実施しており、平成25年度は2回実施した。このことにより、吉祥寺地区において、荷さばき作業による路上駐停車車両が削減され、回遊性が向上した。

24	吉祥寺駅改良整備事業 《土木費 ○吉祥寺駅改良整備事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	734,143 582,355	回遊の骨格軸を明確化するため、JR 吉祥寺駅改良事業及び京王吉祥寺駅のビル建替え事業にあわせて、駅南北自由通路の拡幅・直線化の整備とともに、北口駅舎全面の顔作り（歩行環境整備（庇設置））を行った。
25	駅前高度利用商業地域リニューアルまちづくり基礎調査 《土木費 ○吉祥寺駅周辺整備計画》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	8,000 7,875	吉祥寺駅周辺において、土地・建物・道路状況等の基礎調査を行い、現況特性を把握するとともに、数パターンのシミュレーションを行い、建物更新に係る課題を把握し、検証するための資料を作成した。
26	吉祥寺駅北口駅前広場整備事業 《土木費 ○吉祥寺駅北口駅前広場整備事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	12,000 54,585	平成 23 年度より「吉祥寺駅前交通体系検討会議」を設置し、北口駅前広場の機能の見直し・更新について、バスベイやタクシープールを含めて検討を行ってきた。 平成 25 年度末には北口駅前広場の機能更新整備が完了した。
27	都市計画道路 3・3・23 号線事業 《土木費 ○都市計画道路 3・3・23 号線事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 決算	1,421,000 1,418,266	武蔵境駅北口広場の歩行者の安全や円滑な交通処理の実現と武蔵境らしい駅前空間を創出する事業。基本計画に基づき、警視庁等関係機関との協議・調整を行うとともに電線共同溝詳細設計、広場用地買収契約、道路整備工事契約等を行った。
28	武蔵境地区区画道路整備事業 《土木費 ○武蔵境地区区画道路整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 決算	9,100 2,980	武蔵境駅の東西地区の適正な土地利用の促進と防災機能の向上を図る事業。西区画については、市道第 291 号線及び市道第 292 号線の 2 路線を交通開放した。また、東区画については、土地境界立会い及び補足測量等を行うと共に用地買収交渉を行った。
29	武蔵境駅舎周辺環境整備事業 《土木費 ○武蔵境駅舎周辺環境整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 決算	262,000 418,944	回遊性が高く、南北一体を象徴し、自然と調和する駅前空間を創出する事業。駅場協等の市民意見が反映された、武蔵境駅舎連続施設（北側）新築工事を前年度より引き続き行い、平成 26 年 3 月に完了した。また、武蔵境駅舎・広場・街づくり協議会への側面支援を行った。
30	都道 123 号線拡幅整備事業 《土木費 ○都道 123 号線拡幅整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 決算	63,000 142,033	東京都の『新みちづくり・まちづくりパートナー事業』による都道 123 号線調布線の拡幅整備事業。武蔵境駅北口において、新規路線（東西方向）の道路拡幅予定地の買収契約及び電線共同溝（北側）設置工事等を行った。また、旧路線（南北方向）を相互通行で、市道第 291 号線と同時に交通開放した。

(6) 安全でおいしい水の安定供給

31	配水管網整備の推進 《水道事業会計》 [工務課]	予算 467,737 決算 454,210	災害時にも安全でおいしい水の安定供給ができるように、配水管の新設や老朽管の更新等配水管路の耐震化を図り、25年度末の耐震化率が43.6%と前年度に比べ1.5ポイント上昇した。 ・工事内容 配水管新設工事 (5件) 620m 配水管(鉄管)改良工事 (5件) 1,078m 配水補助管改良工事 (13件) 2,981m 配水管受託工事 (3件) 38m
32	浄水場・水源施設の維持更新 《水道事業会計》 [工務課]	予算 151,480 決算 143,283	円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を計画的に維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため深井戸の更生工事を行い、安全でおいしい水の安定供給を図った。 ・工事内容 第一浄水場監視用伝送装置盤取替工事 第二浄水場配水モータ及びフローマッチャー盤改修工事 7 水源更生工事 22 水源更生工事 外8件

VI 行・財政

(1) 市民視点に立ったサービスの提供

1	電子自治体共同運営 《総務費 ○契約事務○内部統合情報システム》 [情報管理課 管財課]	予算 11,905 決算 11,472	東京都と市区町村の共同運営による電子申請サービス及び電子調達サービスを利用し、電子申請については、自転車安全利用講習会、誕生記念樹、歯科健康診査、胃がん検診、乳がん検診、骨粗しょう症予防教室、モーニングコンサートの申込など、携帯電話を含む26の手続を電子申請化し、申請手段を多様化することにより利便性の向上を図り1,983件の申請を受けた。電子調達については、入札対象範囲を順次拡大し、工事123件、委託258件、物品93件、計474件(不調含む)の電子入札を行い、入札件数全体の87.1%に及んでいる。
2	コンビニ・クレジット収納 《総務費 ○市税の収納》《国民健康保険事業会計 ○保険税の賦課徴収》 [納税課 保険課]	予算 7,555 決算 6,567	市民のライフスタイルの多様化に対応するため、コンビニエンスストアやクレジットカードによる納付など、市民の利便性向上を図った。 ・コンビニ収納 市民税・都民税 17,122件、固定資産税・都市計画税 15,981件、軽自動車税 3,881件、国民健康保険税 21,005件 ・クレジット収納 市民税・都民税 1,303件、固定資産税・都市計画税 1,535件、軽自動車税 190件、国民健康保険税 1,413件

(2) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり

3	インターネットによる議会中継（録画による配信等） 《議会費 ○議会運営》 [議会事務局]	予算 決算	6,242 5,666	広く市民に議会審議の様相を伝えるため、本会議及び予算・決算特別委員会のインターネット中継を行った。 ・アクセス数 12,805 件（うち録画 3,546 件）
4	議会だより発行 《議会費 ○議会だより発行》 [議会事務局]	予算 決算	6,205 4,059	年4回発行（定例会4回、4色刷、延24頁／336,350部印刷、延325,812部全戸配布）
5	ホームページの運営 《総務費 ○広報活動》 [秘書広報課]	予算 決算	14,063 13,566	市公式ホームページの全ページについて、スマートフォン対応の表示とし、閲覧性の向上を図った。また、ユーチューブを活用した「武蔵野市動画チャンネル」を平成26年3月に開設し、映像による情報発信機能を強化した。高齢者、障害者等の閲覧に配慮したものとするため、日本工業規格に適合するためのアクセシビリティ方針を定め、継続的に改善を行うとともに、方針目標達成度を測るため試験を実施した。
6	ソーシャルメディアを活用した情報発信 《総務費 ○広報活動》 [秘書広報課 情報管理課]	予算 決算	0 0	平成24年10月から市政情報の提供を始めたツイッターに加え、25年4月からフェイスブックでの情報提供を開始した。同年10月には「武蔵野市ソーシャルメディア利用ガイドライン」を定め、公式アカウントの運用などに際してのルールの特明確化を図った。
7	市民と市長のタウンミーティング 《総務費 ○広聴活動に要する経費》 [市民活動推進課]	予算 決算	1,117 371	市民が主役の市政を進めるため、地域の課題などについて意見交換を行う地域別タウンミーティングをコミュニティ協議会と共催で2回、テーマ別タウンミーティングとして、子育て経験のある父親を中心とした世代及び学生と、コピス吉祥寺にて青空タウンミーティングを開催し、地域の課題や市政全般について意見を聴取した。

(3) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

8	公共施設再編の検討 《総務費 ○企画調整》 [企画調整課]	予算 決算	840 468	公共施設の老朽化、少子高齢化の進展や人口構成の変化、将来の財政状況などを見据え、公共施設のあり方を見直していくことについて市民と共に考えていくため、無作為抽出市民アンケートの実施、公共施設再編シンポジウムを開催した。 無作為抽出市民アンケート3,000名に発送、回答者963名（回答率32.1%） シンポジウム参加人数116名
9	公共施設改良保全整備 [施設課]	予算 決算	133,281 116,374	改良保全（安全・福祉・環境性能等向上整備）のうち「エレベーター地震時閉じ込め防止」「不活性ガス消火設備交換」「小学校体育館天井改修」を実施した。 【工事实施施設】 吉祥寺図書館、市民会館、保健センター、小学校

10	公共施設劣化保全整備 [施設課]	予算	472,834	劣化調査の結果に基づき保全整備を実施し、施設の機能維持及び延命化を図った。 【工事实施施設】 公会堂、吉祥寺シアター、市民会館、保健センター、コミセン、小学校、中学校
		決算	446,886	

(4) 社会の変化に対応していく行財政運営

11	財政援助出資団体の在り方の検討 《総務費 ○企画調整》 [企画調整課]	予算	7,820	市の行政活動を補完する財政援助出資団体について、公共サービス提供主体の多様化などの社会状況を踏まえた上で、経営状況や果たすべき役割を精査し、今後の在り方を検討した。 平成25年度は「財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」を策定した。
		決算	7,749	
12	住民情報系システム再構築 《総務費 ○住民情報系システム》 [情報管理課]	予算	159,361	住民記録・税・国保等の住民情報系システムについて、統合パッケージによる再構築を実施し、26年1月に新システムが稼働した。セキュリティ対策の強化、システム間データ連携の複雑さの解消、仮想化基盤の構築、クラウドなどに代表されるサービス利用型の調達形態の導入等により、庁内全体の業務、情報システム及び費用の最適化を実現した。費用については、前システムの使用を継続した場合に要するランニング費用の範囲内で全ての再構築を実現した。
		決算	155,659	

(5) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

13	よい仕事表彰 《総務費 ○職員管理・給与事務》 [人事課]	予算	110	職員が互いの仕事に関心を持ち、良い仕事をほめる組織風土を醸成するため、課又は個人が取り組んだよい仕事に対する表彰制度を開始した。職員の創意工夫による様々な成果や組織として奨励すべき取組みを表彰事由として取り上げ、その意欲や功績を称えるとともに、模範となる職務行動や工夫・改善の取組みを全庁で共有し、組織力の向上を図った。 平成25年度については、32件の部長表彰事例から5事例を優秀賞、1事例を市長賞としてさらに表彰した。
		決算	100	
14	市民雇用創出事業 《総務費 ○市民雇用創出事業》 [人事課]	予算	688,359	市の業務を見直し、ワークシェアリングと求職者の生活支援を目的に市民の雇用を創出するという観点から嘱託職員の任用を行った。職員の定数適正化計画の実施とあわせ、庁内各課との調整を行い、中高年齢者及び障害者を対象として、平成26年3月1日現在で38課59業務219人の嘱託職員を任用した(教育委員会含む)。また、平成26年3月1日現在、本市独自の緊急雇用対策として、4課4業務4人の嘱託職員を任用した。
		決算	632,320	

Ⅱ 平成 25 年度基金の運用状況を示す書類

地方自治法第 241 条第 5 項の規定に基づき、平成 25 年度の基金の運用状況を報告します。

武蔵野市長 邑上守正

1 平成25年度国民健康保険高額療養費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	2,000,000	2,000,000	3,000,000
6	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
7	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
8	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
9	0	5,000,000		2,000,000	3,000,000
10	0	5,000,000	929,000	2,929,000	2,071,000
11	0	5,000,000	0	2,929,000	2,071,000
12	0	5,000,000	0	2,929,000	2,071,000
1	0	5,000,000	0	2,929,000	2,071,000
2	929,000	5,929,000	0	2,929,000	3,000,000
3	0	5,929,000	0	2,929,000	3,000,000
計	929,000		2,929,000		

※過去の運用状況から、貸付運用額500万円を200万円減額し300万円とした。
減額した200万円は一般会計へ繰入れた。

イ 利息収入の状況

(単位：円)

上半期預金利息	406
下半期預金利息	245
計	651

(注) 上記の利息収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	3,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000

2 平成25年度国民健康保険出産費資金貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	2,000,000	2,000,000	3,000,000
6	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
7	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
8	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
9	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
10	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
11	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
12	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
1	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
2	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
3	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
計	0		2,000,000		

※過去の運用状況から、貸付運用額500万円を200万円減額し300万円とした。
減額した200万円は一般会計へ繰入れた。

イ 利息収入の状況

(単位：円)

上半期預金利息	406
下半期預金利息	299
計	705

(注) 上記の利息収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	3,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000

3 平成25年度高額介護等サービス費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	2,000,000	2,000,000	3,000,000
6	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
7	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
8	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
9	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
10	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
11	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
12	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
1	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
2	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
3	0	5,000,000	0	2,000,000	3,000,000
計	0		2,000,000		

※過去の運用状況から、貸付運用額500万円を200万円減額し300万円とした。
減額した200万円は一般会計へ繰入れた。

イ 利息収入の状況

(単位：円)

上半期預金利息	406
下半期預金利息	299
計	705

(注) 上記の利息収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	3,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000